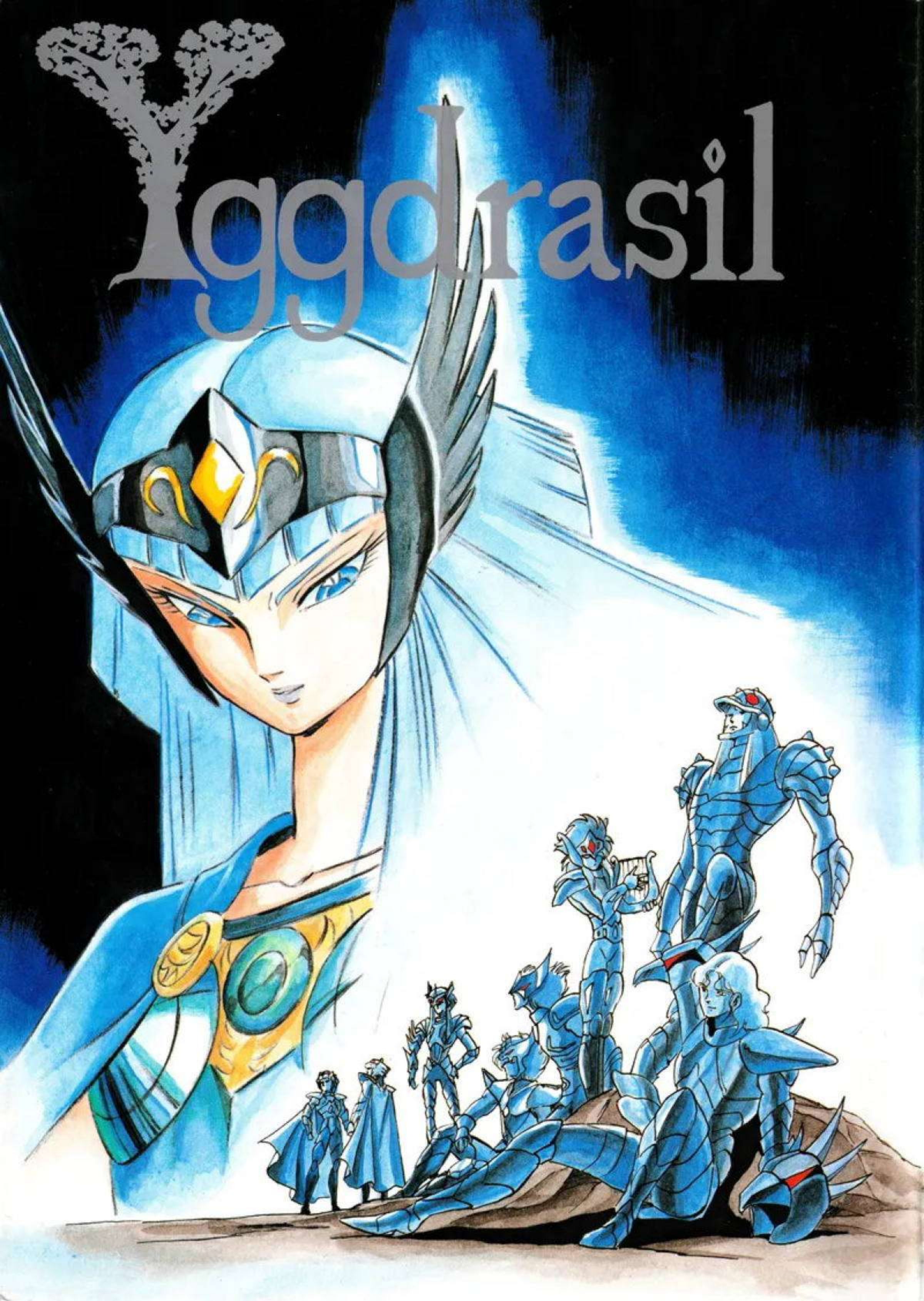
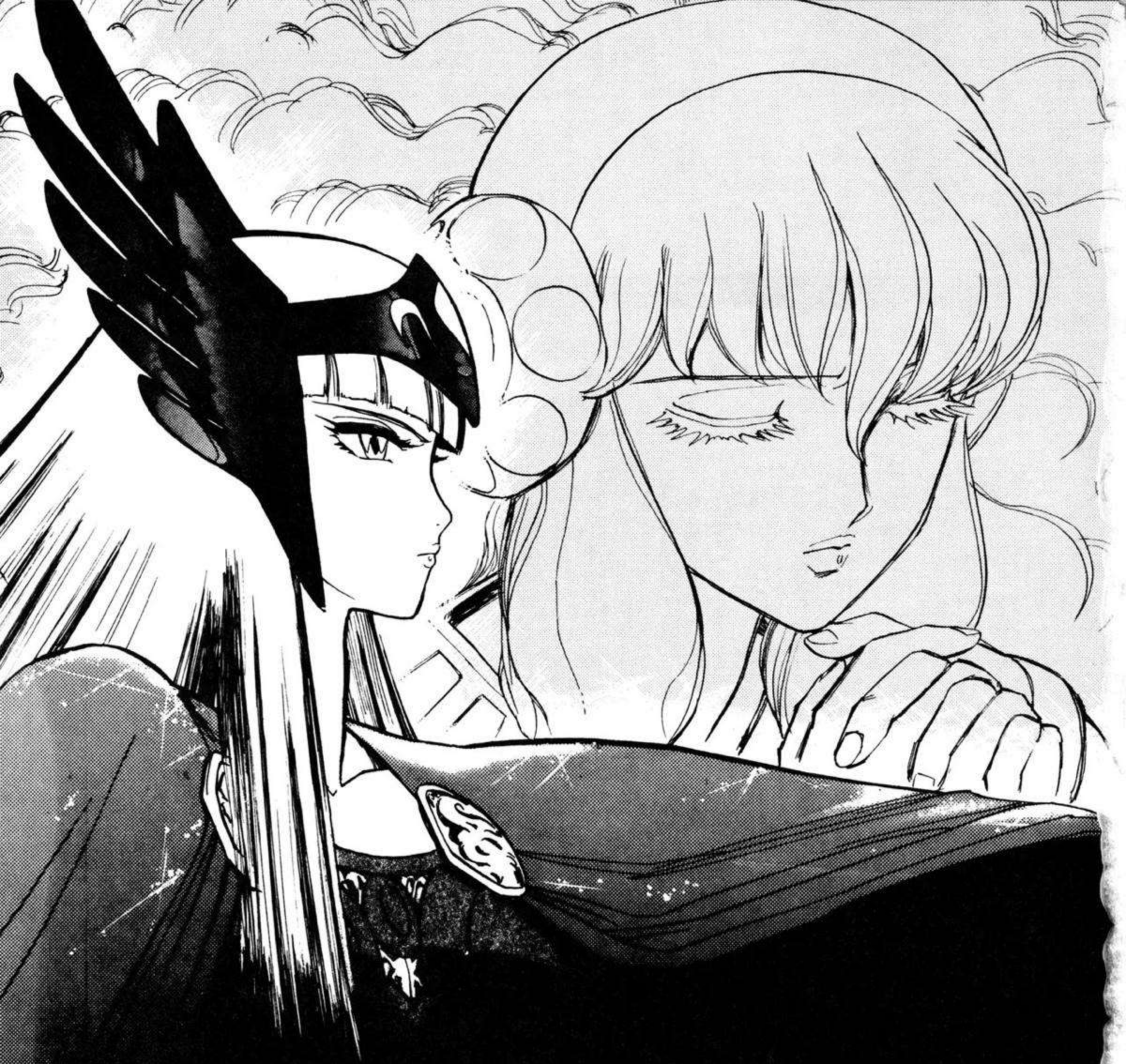


Iggdrasil





Yggdrasil

CONTENTS

5 P	アテナのパラレル北欧編	オハイオ州 力
25 P	凍人の群れ	文 ケステ・スイシーダ 絵 B. N. R.
35 P	この勝負 私があすがると	上村 上
39 P	ヒルダ…悪魔に魅いられた女神	本田 有保
51 P	イラスト	たや たかし
53 P	編集後記	
表紙		オハイオ州 力
裏表紙		上村 上
目次・奥付カット		B. N. R.

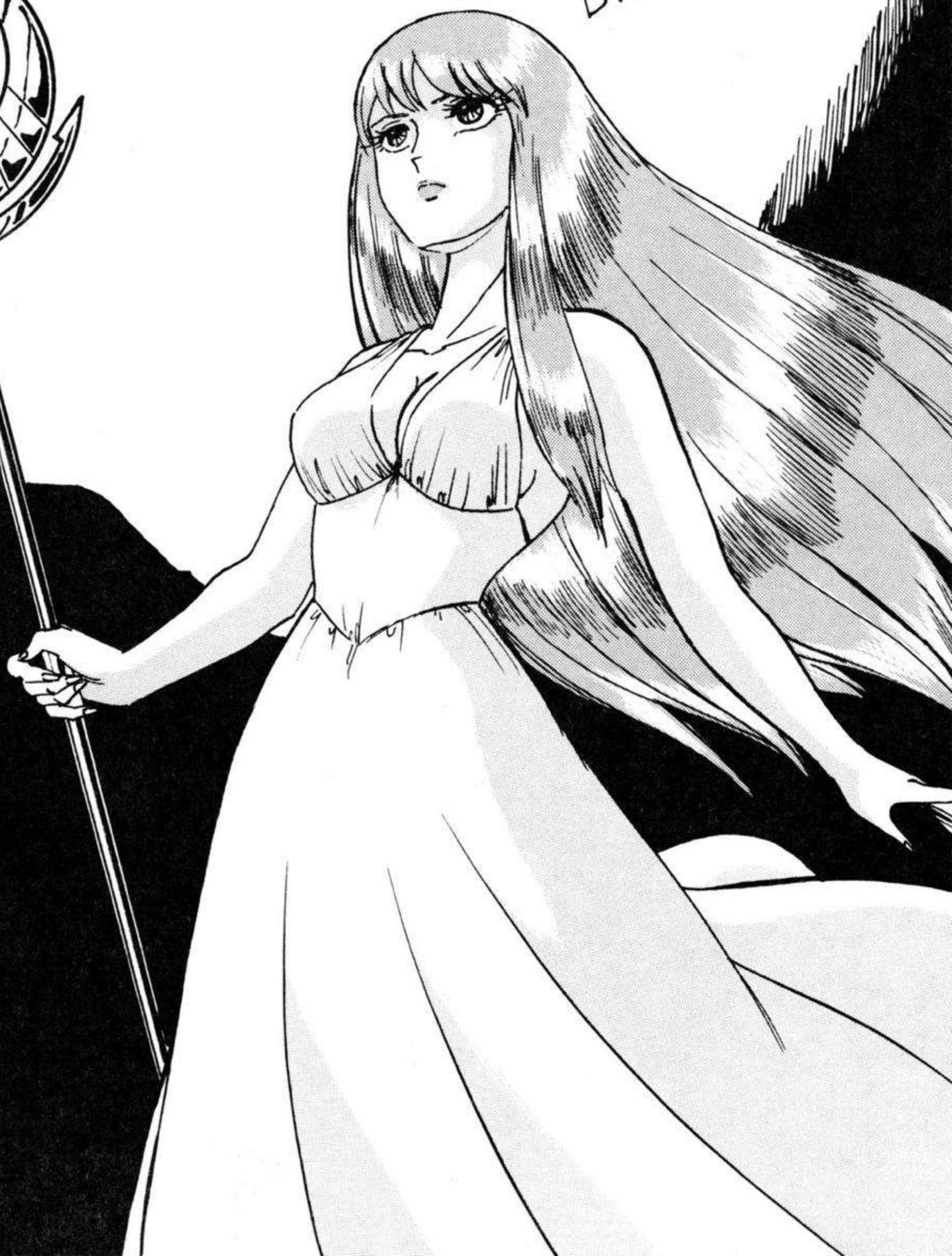




パラレルワールド 北欧編

『^{セイント}聖闘士星矢』がオハイオ州・カの
手におちた時、アテナと聖闘士の
立場が逆転した……!!!

BY. オハイオ州☆カ



アナ 織の 沙織



トアア！



オーディンの地上代行者
ヒルダが邪悪と化した時
アテナの聖闘士たちは、
地上が、大洪水に襲われるのを
くい止めるために立ち上がった！

レイン
ン
ン
ン
ン

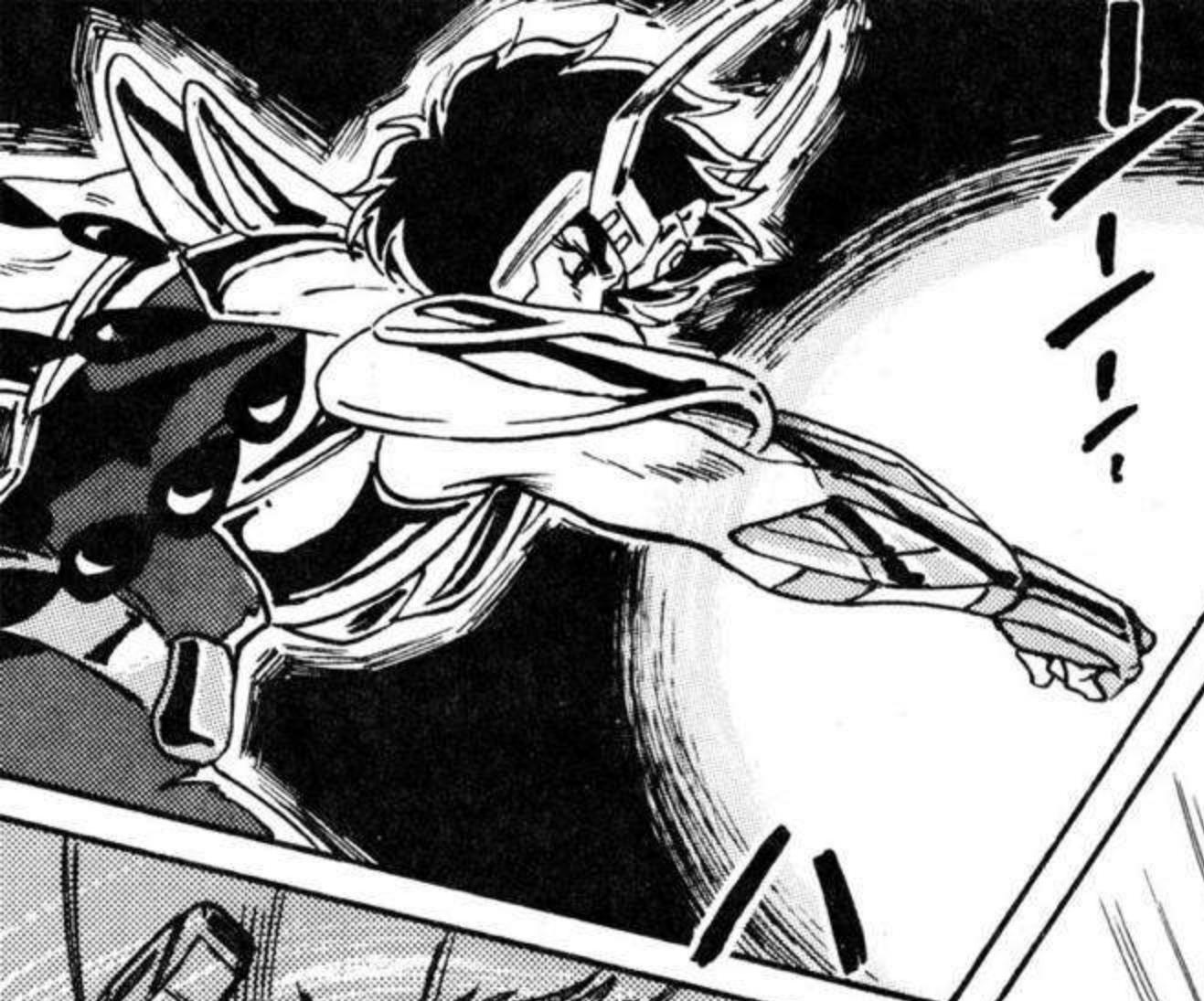
ヒュウウウウ

ムン
ン
ン



サウ

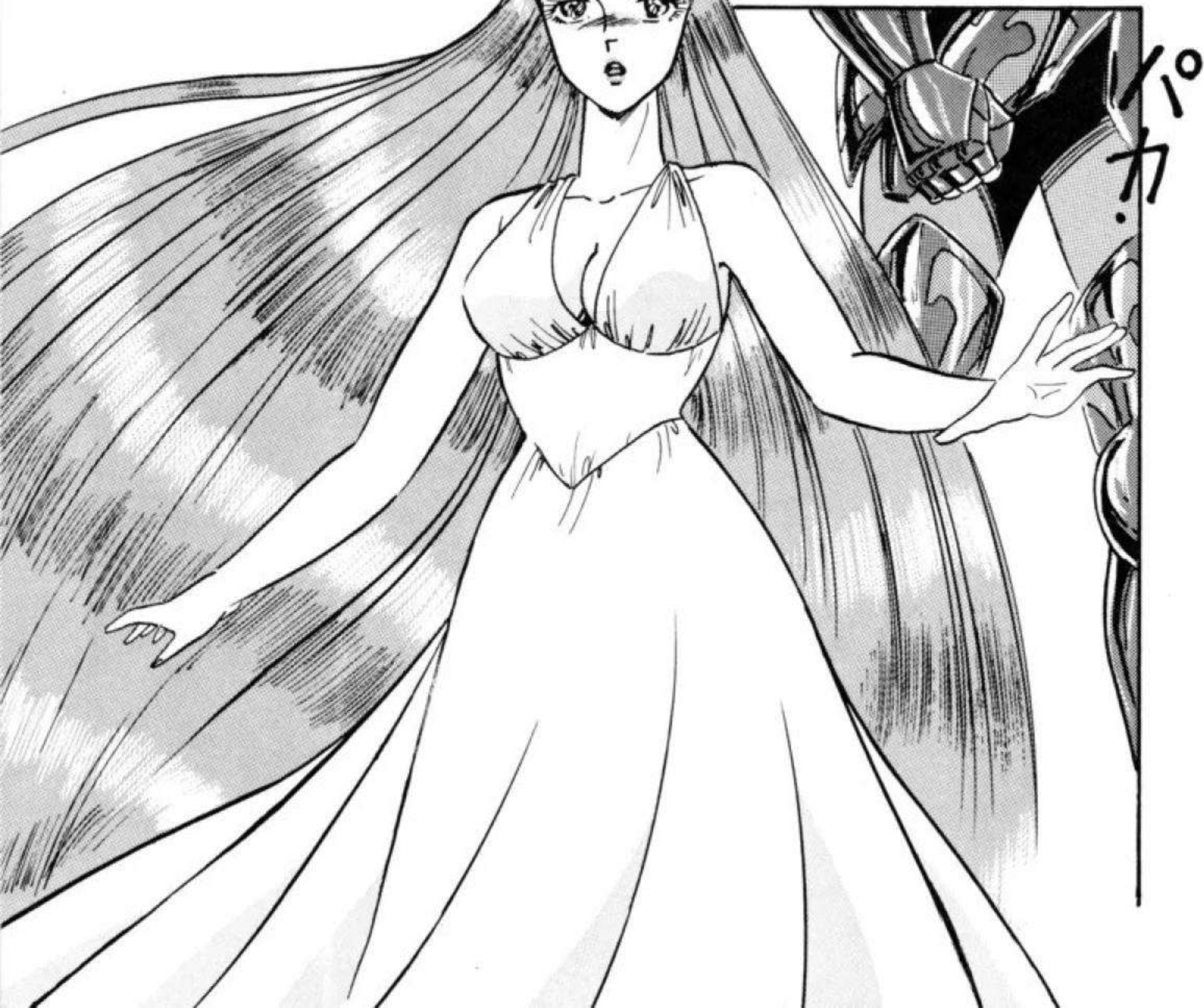
サッ
パ

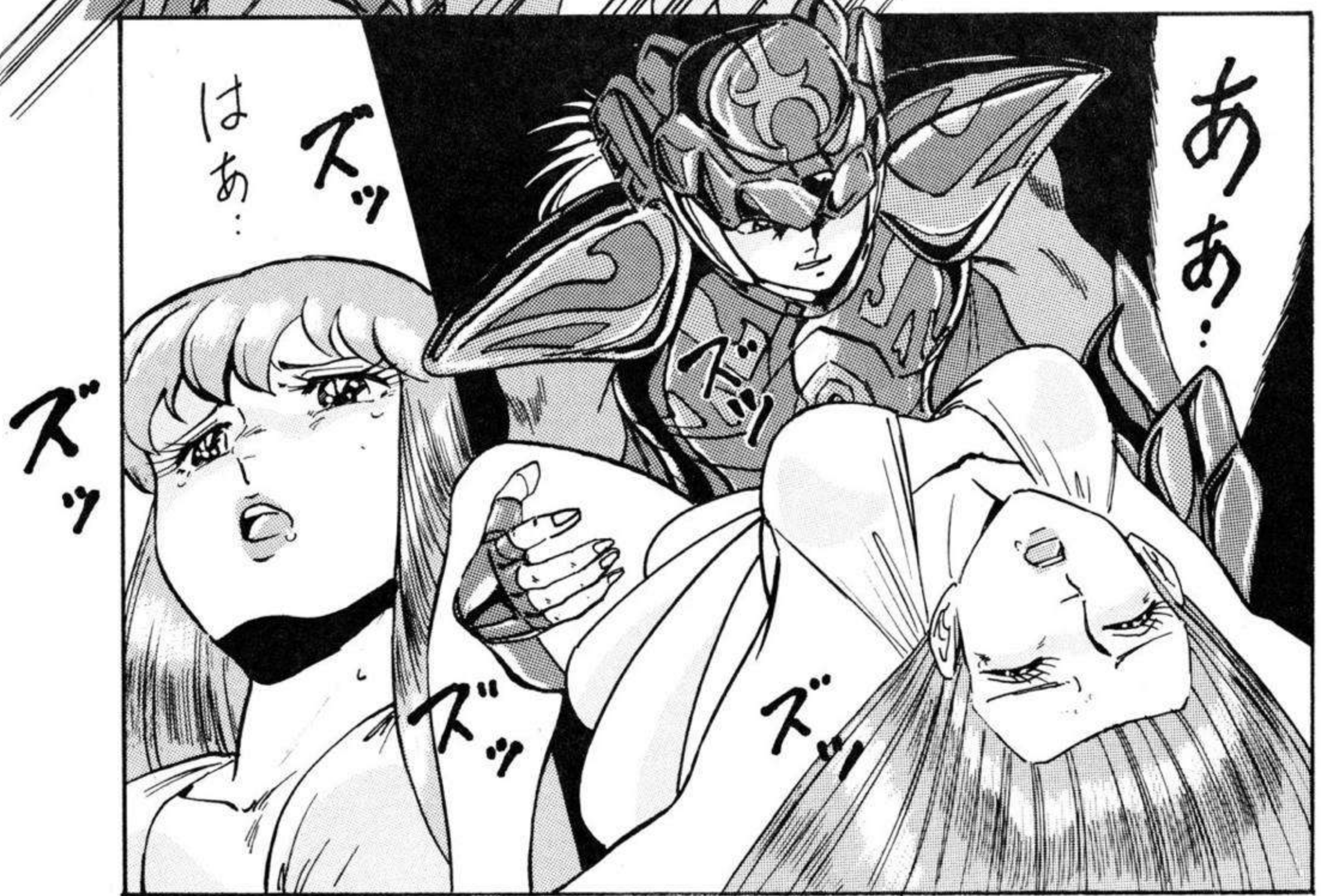


ズ
ズ
ズ
ズ
ズ

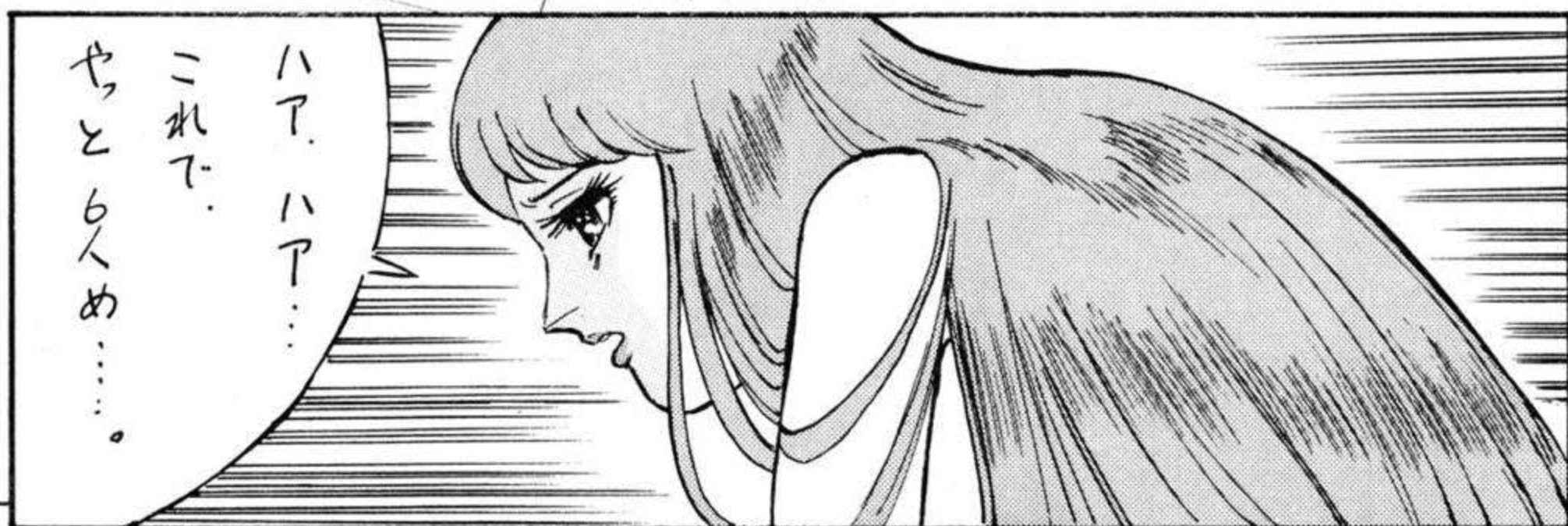
ヒルダを目覚めさせるためには、
ワンの神闘士をたおし、
バルムングの剣を手に入れな
ければならない…
急げ、沙織。世界の運命は、
お前の肩にかかっているのだ!!











あー！

あなたは！！

フン



あう



オレの名は
アルコルのバド
シドとは
双子の兄弟。



だが、
シドが倒れた今
このオレ様が
ゼータ星の
デューパー
神闘士と
なるのだ！



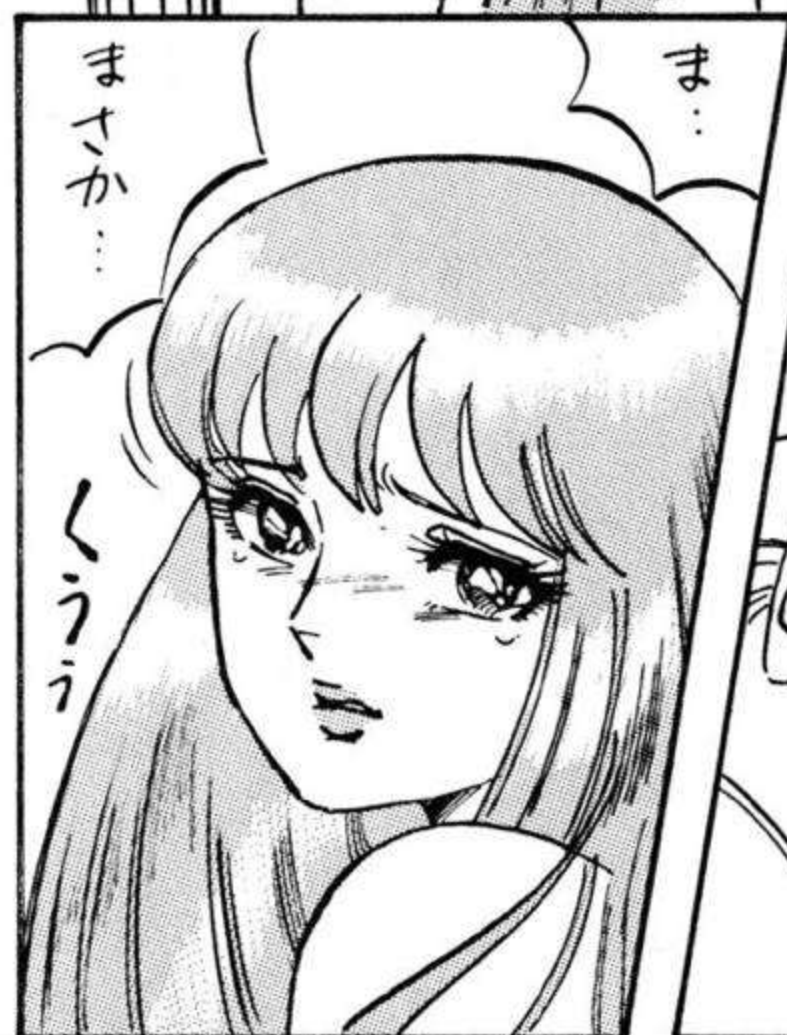
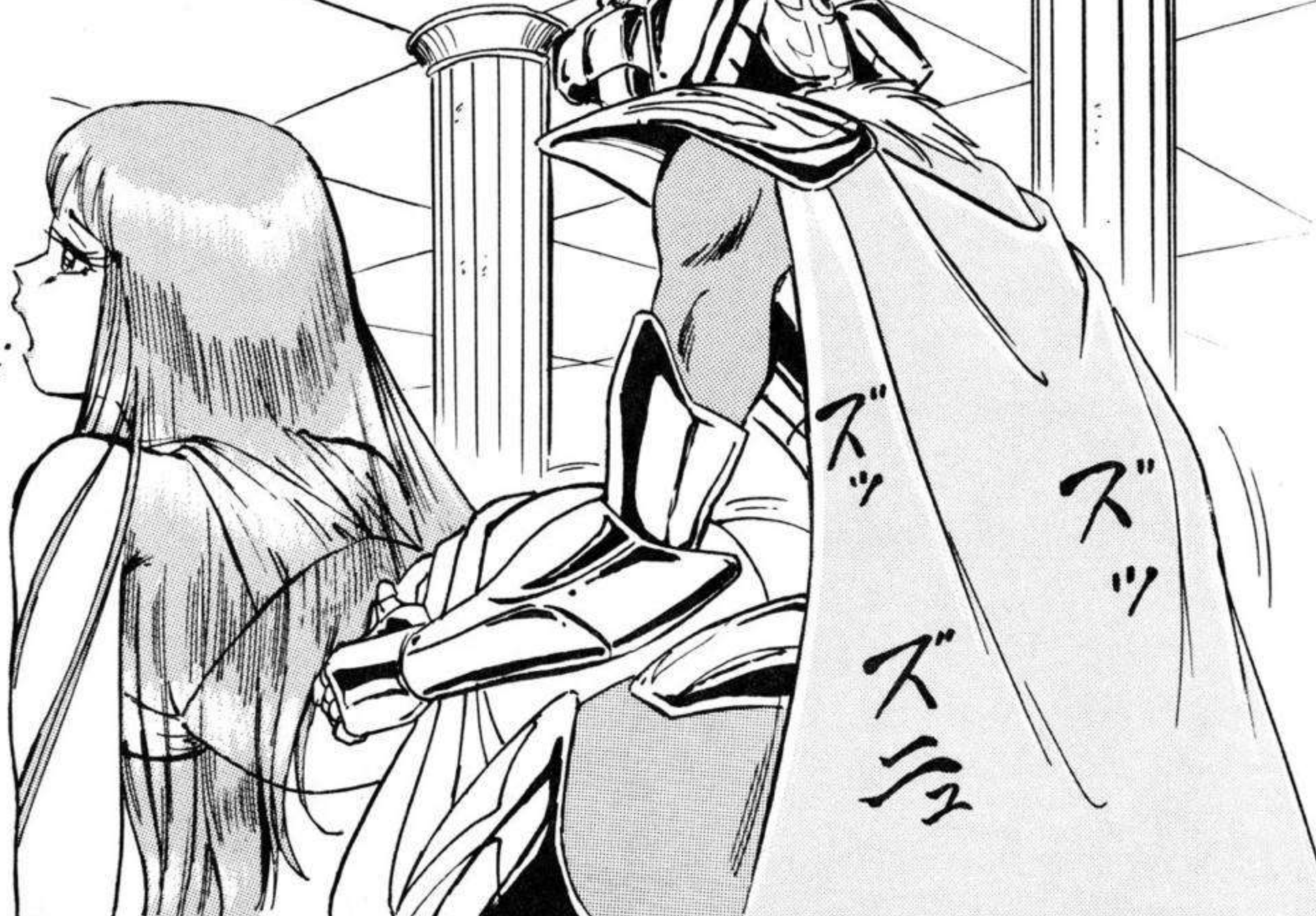
今までのオレは
シドのカゲで
しかなかった。

あー...

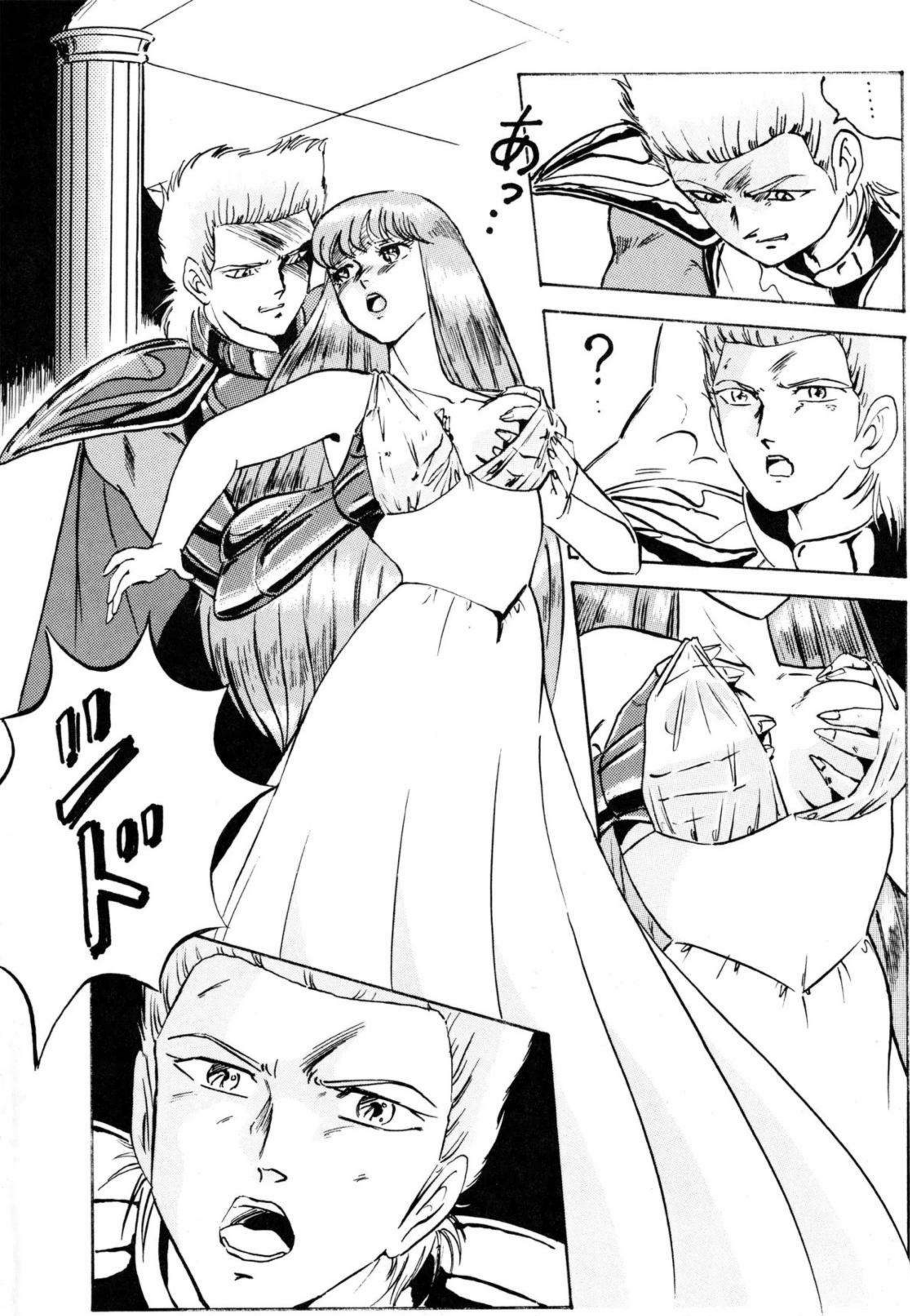
シド...

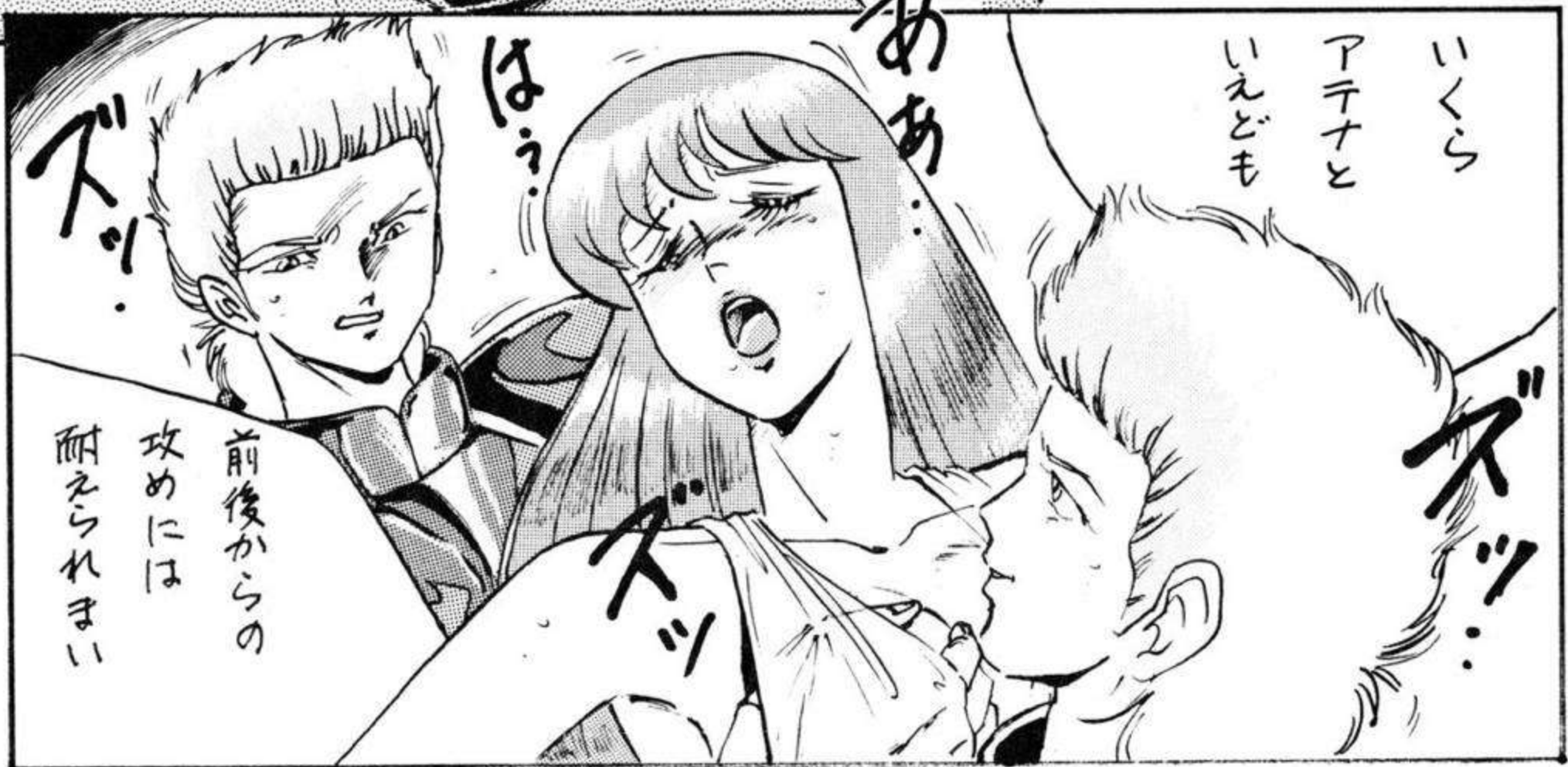


ああ
いやあ

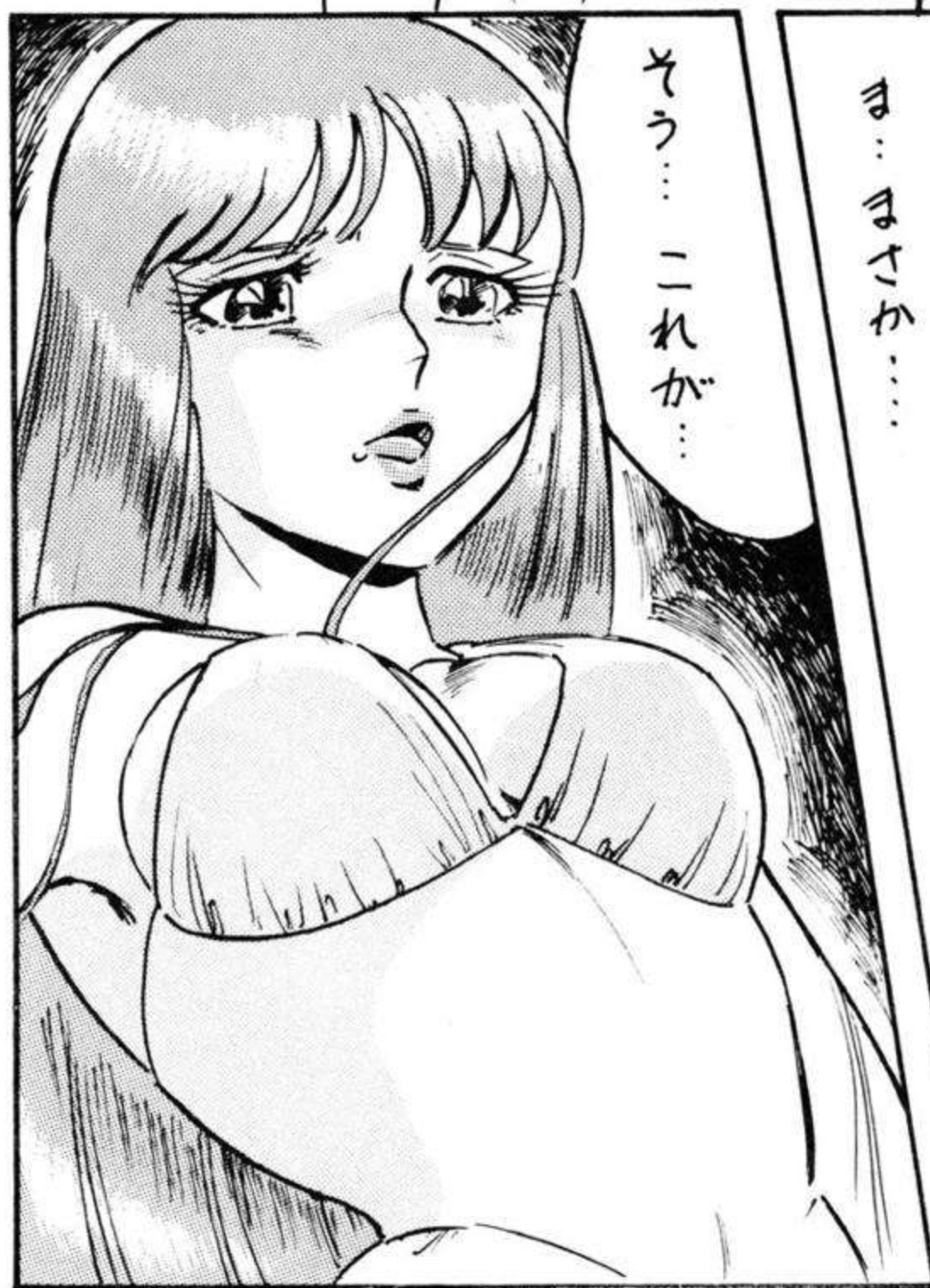
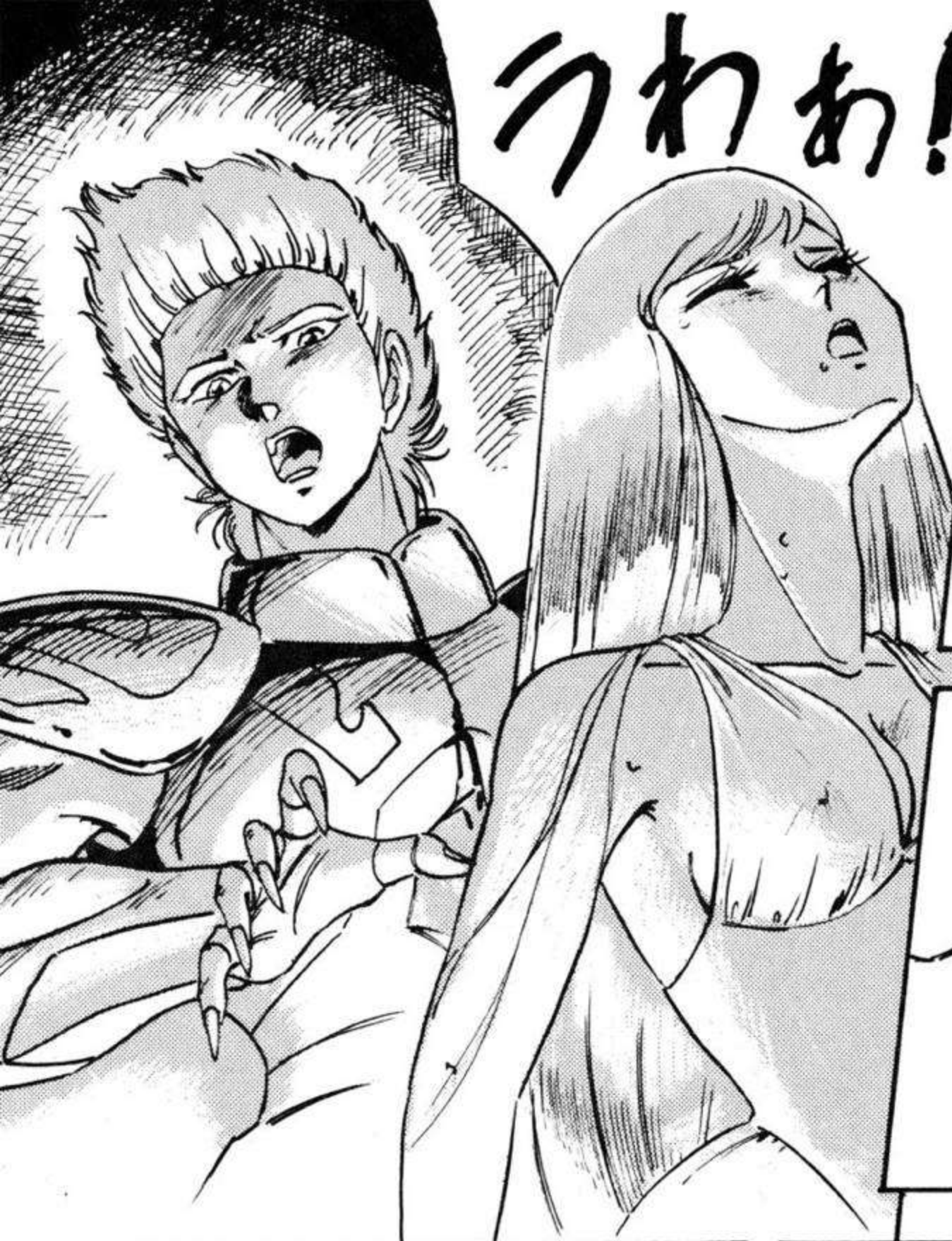








うわあ!!



そう…これが…

これだけの
攻めにあっ
いながら…
まったく衰える
事のない…いや
攻められれば攻められる程
コスモは力を増して行く…
ま…まさか…



セグン
セツズ
よおー







ゼータ星の
神闘士までも倒す
とは……
アテナめ、なかなか
やるではないか。
だが、悪あかきは
ここまで……



出よ！
アスガルド最強の
神闘士！！

はは！

アテナは
必ずや
私めが……

END.



凍人の群れ

文・ケステ・スイシーダ

絵・B. N. R.

～あるいは億万長者はアスガルドを殺す、こと～

——そういうわけで聖闘士星矢・黄金の指輪篇なわけである。どういいうわけかというと、いきなり北欧の神オーディーンの地上代行者ヒルダの元に「邪悪な声」が響いて、海が割れて波ザッパーンでヒルダがニーベルンゲン・リングをはめられて悪女になってしまったわけなのである。

そういうわけで、これは加藤組の本の乱丁でも何でもなく、今から10ページのあいだ、あなたの瞳はあなたの体を離れ、聖闘士星矢の世界に入ってゆくわけなのである。(もう入ってるか)——お覚悟を。

ゴッドウオーリアー 神闘士のこと……

出たぞ出たぞマッドマックス2・ザ・ゴッド・ウオーリアーズだ。邪悪と化したヒルダがその力で封印していた神闘衣・ゴッドローブを復活させて結集したこの北欧神話最大の勇者たち、はじめに見た日にや「何だ何だ、絵に描いたような美形(当たり前か)をズラズラ並べただけじゃないか」と思ってたかをくくっていたものだけれど、回を追うに従って事実がハッキリしてきた。出るわけ出るわ、性格破綻者の群れ、気品高き美形どころか、危ない根暗軍団になってしまいかねない勢いで、参ったねこりやの世界だ。とはいえ彼らのこの底に秘めた重さが「暗い黄金指輪篇」を支えていたと断言できるわけで、これが映画版ゴッドウオーリアーのような、作画明瞭意味不明僚な奴らとか黄金聖闘士のようなウリホーな方々だったりしたらシリーズのムードは大きく変解していた筈だ。とにかくまあ日の当たらない国の寒さを具現している方々ではある。

『☆フグダのトール』

この世界の重要キャラとしては珍しいヒゲ面だったり、美形続出の一話ではアッポを出してもらえなかったりで面喰いのファンには総スカンをくらっているようだが、正直言ってこの人ものすごく好きである。変な言い方になるが、青銅聖闘士たちがなくしてしま、たものを全て備えているとさえ思える。勝手な、思いこみ、ではない自分の力量に対する絶対的な自信、黄金聖闘士とはまた別の怪物性（化け物じみた強さ）に、闘いのバックボーンの中へ入る。少年、年ばかりの世界に、徐々に「男」が現れた、という感じで、古い世代の人間としては安心して熱血！できたのである。その、生活臭すらに、じませドッカと地に足をすえた男の言い放つ、貴様たちのように、暖かな太陽のもとでぬくぬくと暮らしてきた奴らには解るまい！、という言葉は、青銅たちの百の理屈を超えた力を持っている。（やはり子供のケンカに大人が出てきてはいかん。勝負にならない。ん？）

人間がこのように大人しているので、ヒルダへの忠誠心も生活実感に裏づけされたしみじみ心を打つものになっている。かつて貧しい民のためにワルハラ王宮の獵場で密猟をしていた自分を見逃してくれたヒルダとのただ一度の出会いを心の中に抱え続けていたトール。「オーディンだが何だか知らないが、そんなもので腹がふくれるかい」と毒づく彼に、自分の力のいたるなを説いたヒルダ。そのヒルダが変わってし

まったことに気付きながらもう己れを叱咤しつつ戦うトール……。祖国と祖国の民のことを考へ続けて来たトールは、最期の時にはただヒルダ一人のことだけを想って死んでいった。そして、トールがこれだけ思い込み、最後にはヒルダのことを星矢に託して立往生するまで、目の前の星矢はただ相手を叩きのめすことだけを考へ、な一んの悩みも抱かずトールをぶち殺してしま



った。……人知れず涙を流して倒れたトールの体の上に、アスガルドの雪がしんと降り積もってゆく。彼の遺体と神闘衣がその後どうなったのか。それはボセイドン篇が終わるまで（終わっても？）判明するまい。

E☆アリオトのフェンリル

幼い日、家族を熊に襲われ（！）目の前で両親を惨殺される。両親を見捨てて逃げたばかりか、さんざ世話になっていたフェンリル家にも後足で砂をかけ、いた親族・友人のおかげで完全な人間不信に陥り、危機を救ってくれた狼と共に育ったという狼少年フェンちゃん。『氏より育ち』の見本のようなお下品さがウツウツとした聖闘士ワールドにスカッとした風を送ってくれるが、父親も枝を手に熊に立ち向かう無鉄砲親父だったから血統かもしれない。

紫龍の技をついにことごとく見切り続け、しかも紫龍得意の「友情説教」にとうとう説得されなかった。エライ！果ては紫龍もトサカに来てかなり低次元な口論に発展したが最後まで話がかみ合わなかったのは見事。これも狼社会で育ったためフェンリルの言語感覚がメタメタになっていたせいかもしれない。名ゼリフも多いが妙に脈落のない受け応えをしていたフェンリル。あのままおとなしく狼たちに食われていればこの激痛地獄からはのがれられていたものを、などとムチャを言って紫龍を悩ませていた。

自分を育ててくれたギングはじめ狼たちとの仲間つまじさは心暖まる（？）もので、同情だとか理屈ではない。共に生きてゆく者としての心の通い合いがあった。ここを全く認めようしない紫龍がいくら人間どうし、仲間どうしの友情を訴えたところで聞いてもらえないはずがない。何やら硬直した紫龍の友情観がバク口されただけで、全く実のなか、た説教問答は終わってしま、たが自分が殺した男に向かつて、今度生まれてくる時は幸せに生きるよ云々、などと

声をかけたあけく、立ち去ろうとするところを
我たちに谷底へケ落とされた紫龍は果てしもな
くマヌケであった。(この回見て紫龍ファンが
泣くわけだ)

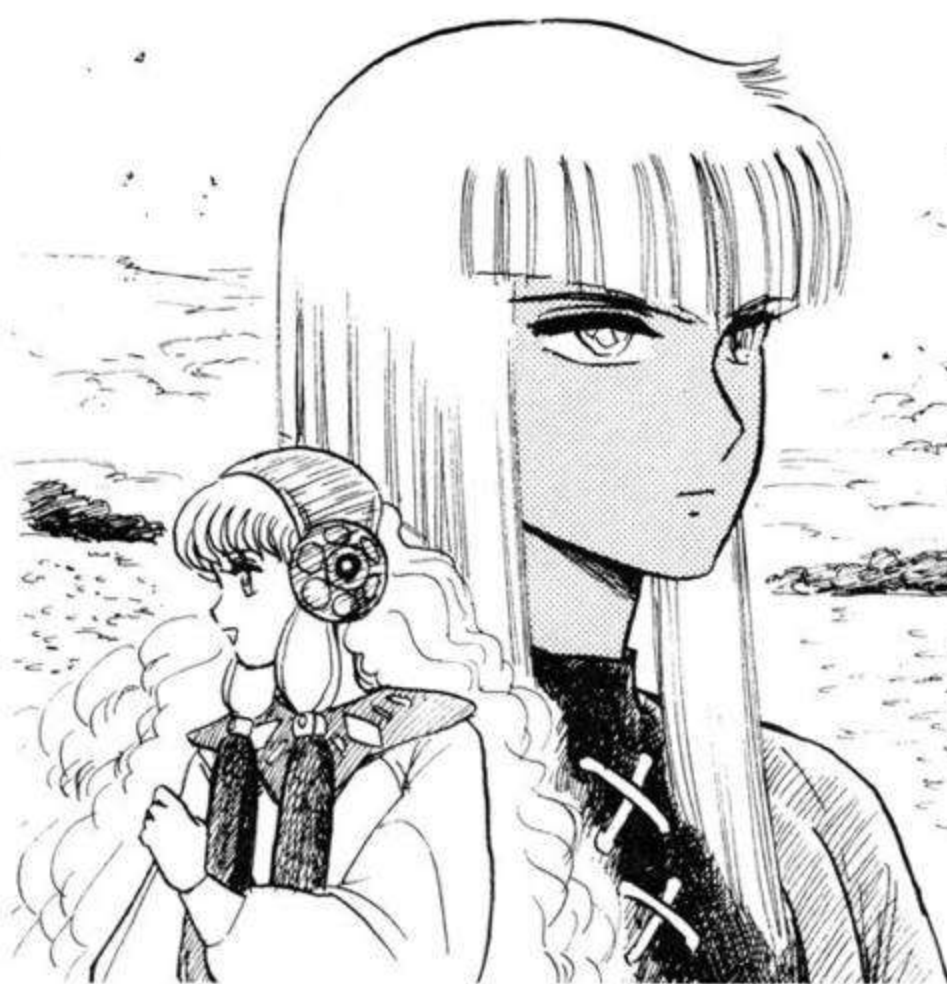
最後になつたがこのフエンリル、生身の風貌
と神間衣のデザイン、それに境遇、技などが最
もバランス良く整っていたキャラクターだった
と思う。人々もさもありなむ、合掌。

B☆メラクのハーゲン

灼熱の拳を操る自称北政の荒くれ馬、実はウ
ブで純粋すぎる箱入り近衛兵、メラクのハーゲ
ン。実に幼少の頃からヒルダの妹・フレアへの
淡い思いを忠誠心にスリかえ、常に自分を制し
て一歩下がった存在としてフレアに仕えてきた。
ところがそのフレアが、はたから見たらカケ落
ち同然に氷河と手とりワルハラ客を脱走して
しまったからさあ大変。私怨に燃えるハーゲン
と氷河の一騎討ちが始まった!

思いこみの激しい性格ゆえ名ゼリフも多く、
後悔先に立たずということわざをお前に送っ
てやろう! という氷河とはほとんど漫画である。
も、ともその名ゼリフが「フレア様に余計な事
を吹きこんだ張本人め、このハーゲンが成敗し
てくれる」「フレア様のお心にトゲを刺したお前
の罪、死しても余りある!」「お前がヒルダ様と
フレア様の姉妹愛を引き裂いたのだ!」この永
久凍土が溶けることはあ、てもお前の罪は永遠
に消えはしない。未来永劫背負い続けなくては
ならない大罪だ!」とみんなフレアがらみなの

は致し方ないところで。とにかく徹頭徹尾ヒル
ダ様フレア様の人で、献身の二文字で生き
てきたような人生である。が。



最後には身を呈して氷河をかばうフレアの姿
に恋心と忠誠心との間で神経をズタズタにされ
遂に「俺はヒルダ様のゴッドウォリアーです」
フレア様! ヒルダ様のために死んで下さい!!」
と文字通り血を吐く叫びと共にフレアに拳を放
ち、氷河を倒したら自分も後を追おうとする。
まるっきりの心中譚。あけく「フレアの想いを
無にした貴様の罪、死してもなお余りある!」
とかなり理不尽な氷河の放つ怒りの一撃を受け
フレアが自分に対して流してくれた涙も知らず
死んでしまった。…ま、何と言うか、見事な位
互いの思いがカラ回りしてる悲しい話である。

この場面、「おほかのフレア」ということで
フレアが一身に非難を浴びているが、果たして
小利口な仲裁程度で収まったものか疑問だ。彼
がフレアに対して言い放った「俺たちをあまね
く陽光ふりそそぐ地に導いてくださるというヒ
ルダ様の御心に、俺は…ベータ星メラクのハー
ゲンは殉じる覚悟です!」という一途すぎる叫
びが表しているようにハーゲンの祖国の幸福へ
の思いは熾烈であり、自分の恋心ごとくと天ビ
ンにかけられるものではなかったはずだ。

ここまで来ると考えてしまふ。彼らを易々と
打倒サンクチュアリに走らせたものは何だ、た
のか。悪女ヒルダの魅力などではない。宿命の
元でのヒルダの治政でも勿論ない。サンクチュ
アリの元に仕えていたアスガルドの過去の事実そ
のものである筈だ。ならば…ハーゲンの如き
若い魂をそこまで追いつめてしまったサンクチ
ュアリの地上支配とは、一体何であつたのか?

H☆ベネトナシのミーメ

アスガルド一の勇者・フォルケルの息子とし
て日夜いぢめられ、もとい鍛えられていたが、
物心ついた頃に実はフォルケルは養父でありお
まけに自身の両親を殺した仇だ、たと判明、十
数年父と慕ってきた男をその手にかけてしまふ。
しかもフォルケルはミーメの命を救った恩人で
彼に神間士の資質があることを見抜き自身の生
涯をこの子供の成長に捧げんとしていたのだ!
思わず「何だこれは」と言いたくなるくらい
暗い。鉄人タイガーセブンを評して「もっ

するあたりかなり出来た人物なのだが、自分が通した言葉より子孫が反逆をたくらみ、あけく自分が敗れた技で子孫も死んでしまうとは思わなかったろう。合掌である。

Z☆ミザールのシド アルコルのバド

アスガルド篇一話、木戸邸の花畑に花弁の嵐を起して現れたシドは申し分なくカッコ良かった。咲きはこる花の中に片ヒザ付いて自己紹介した後、一撃で邪武ら青銅を切り裂きおもしろに沙織を襲う姿はまさに、黄金をしのぎうる新たな敵というイメージの完璧に近い体現で、黒い(ダークグリーン)だけクロス、背にしたマントもあいまって、神闘士の代表として申し分のない貴族ぶりだったのだ。ところがギッチョンの、その折り目正しい気品振りが、初登場時は黄金聖闘士の、変いぶりに比べて輝いていたのに、肝心の周回戦で闘士された暗い土地、性格の歪んだアブない面々だったためにすっかり目立たないタダの人になってしまった。クセの無い性格でファンになるなら安全牌と言われているのに、お気の毒さまである。肝心の戦闘もミームが破った時のネビュラストリム(ネビュラストリム(レミング))にあっさり破れ、ほとんどバドの前座と化していた。さてそのバド、これも初登場時はやたらカッコ良かった。まさに手のつけられない強さ、影の存在としての不気味な不敵さ。暗い過去を露わにした時の、兄弟を見殺しにしてでも這い上がりたという暗い情熱も凄絶でそこはな

なか良かったのだ。が。ミームに続いてまたも一輝の、幻魔拳で口ウバイさせたところに説教、攻撃の前に敗れる。天涯孤独と思、ていた自分を、父母や兄弟は忘れないでいてくれたと思っただけで、戦闘意欲も失せたのだろうか。やはりこの辺が私怨だけで戦、てる人間の弱さ。この弱みにつけこむのが一輝様は実にウマイ。

家族の思いに気付かず、いた自分の罪を償うべく、シドの遺体を抱き上げて故郷の地へ去るバド。ただ一人命落とすに戦線を脱け出た神闘士ということ、オオ! と思、ていたのだが最終回、故郷を見下ろせる丘の上で二人仲良く行き倒れていたのは哀しくもコッゲイであった。

A☆ドムベのジークフリート

北欧神話最大にして最強の勇者が起つ。双頭の竜をその身に携えて、追いつめられた者はどちらかを忘れさせる落ちつきと気迫と威圧感をみながら、その拳から雷を放つ。竜が吠える。ヒルダに対する忠誠心以外向うの力も發揮して見せてくれなかったジークフリートが遂に立ち上がった。既に何度か見てはいたものの、あのわかれ頭を隠してしまふ双頭竜の神闘衣はまさに戦闘能力のみにこり固ま、た武骨さを感じさせており、それと着るのがジークフリートであるというミスマッチ感覚がいっそう、本気を出した時のジーク様は恐いぞ! という不気味さを感じさせてくれる良い。

果たして果たして、ベールを脱いだジークは

べらぼうに強かった。ちよ、と待てと言いたくなる位ムチャクチャなレベルの強さだ。いかなる神闘士といえ指から怪光線、もとい一本指の拳で地表をえぐり出してみせるとは思わなんだ。しかもあらゆる攻撃を受けつけない完璧な防御。これじゃ何かあざとい、弱点、でも作らないとウリだとは思、たが、まさか本当に弱点があるとは思わなんだ。おいおいXライターのアキレスじゃないんだから。宿命、と言えは聞、えはいいだろうけどさ。……というわけで、わずか10万分の1秒だけスキ間があくだけのはずの心臓部にビッグバンを起こした星矢の流星拳をバカバカバカバカ浴びて、ジークフリートはかなりみ、ともない負け方をしてしまいました。星矢もさ、何度も見たような、みんなのコスモで逆転だ、という勝ち方じゃなくて、神話のハーゲンみみたいななりふり構わぬいじこを、見せてはしかったよな。英雄倒すんだからさ。さてその、英雄、ジークフリートだが、どうも今一つ苦しいのが、某神谷明演するところの声。何か品位とか気品というものの感じじられにくく、一歩まちがえるとお笑いになってしまふという。紫龍の昇龍霸くら、た後、胸の臍跡を指さして、

「クッククッククックク!!!」

と笑うところなどは一瞬、見所をやられたショットでフツツン来たのかと思、てしま、た位で、も、とも当の御本尊も、アルベリッヒが結局やられたと知らされると、ヒステリー起こしてるヒルダの手前、悲劇してる風を装いつつ、しかし、伏



せた下の顔はシドともどもニヤニヤ笑ってるという性格のよい所を見せてくれているし。

とは言えそこはやはり最後の勇者である。

「迷いはあの時捨て去ったはずだ……」

地獄に堕ちようともヒルダについてゆく。ア

スガルドと共に生き、アスガルドと共に死ぬ。

祖国の為の闘いであれば、たとえ相手に「正義」を見ようとも決して退きはない。

彼にとっでは「ヒルダ」と「祖国」はどういう関係にあったのか、それをもっと知りたい。ヒルダについて行ったというよりは、救国の大義について行った観がどうしても見えてしまうのである。なればこそヒルダに正義が見えなくなっても闘いを放棄しなかった彼が、ある一点を

境にまさに豹変する。

「貴様らの真の野望は、このアスガルドをも滅ぼすことだ！」

コロコロ態度を変える奴だと笑うなかれ。実際、海皇ポセイダンの存在を知らされ、この闘いがアスガルド救国のためのものではありえないことを悟って以後のジークフリートの判断の聡明こそ特筆に価する。聖闘士たちも相も変わらずアテナ、アテナと言っている間に彼はポセイダンの目論みの大半を見抜いてしまったのだ。——現実にはヒルダが呪いによって操られている以上、地上を肅清した後にはヒルダを地上の支配者に認ずるという行為が検空事であることは論をまたない。ジークフリートは授けられ邪悪と化し、アスガルドのことも振り返りもしないヒルダにつき従う気などないであろう。さりとて呪いかとけ、自分のしでかした事に気づいてしまったヒルダがおとなしくポセイダンの命ずる地上支配の下請けを引き受けるわけがない。待っているのはヒルダの自決か、あるいは不要となつたヒルダの処分ぐらいであり、神闘士はその気があれば海將軍の手下としてとりたててもらえる程度のものである。どちらにしてもアスガルドの自立はない。さりとてここで聖闘士たちを滅ぼしても後はポセイダンの支配しか残らない。そうなるからポセイダンの反逆を試してみてもはや遅い。残された手段はアテナを救い、サンクチュアリを勢力を残したままポセイダンの反旗をひるがえしてしまふこと——これしかない。という判断がと、さに出てきたのは、あの「聖



闘士ワールド」の登場人物としてはズバけた判断力といってよからう。その後のソレントに対するフザマな闘いぶりにはもう大目に見るしかあるまい。真実のヒルダが彼の最期を気も狂わんばかりの思いで見えていたということが、ある意味では唯一の救いである。南無。

ヒルダ様の……

……さてそこで……ヒルダ様……である。

極寒の地・アスガルドに生まれ育った、北の統治者オーディーンの地上代行者・北極星のヒ

ルダ。そのヒルダが濃紺の厚いマントをひるがえし、刃きらめく櫛をかざし、打倒サンクチュアリ、アスガルドの民の陽光降り注ぐ地への移住を唱えて神闘士に号札をかける。

最初見た時、カ、カッコいい！のひと言で、実にいい加減にファン宣言してしまっただ。もともと性を感じさせない女性とゆーのは好きな上、昨今の無意味露出癖兼男勝りの戦闘能力加えて回らない前頭葉の持ち主という男の都合の固まりのような女性キャラ（今どきおらんかこんなの）には頭痛い思いをしていただけに、同じ御都合ならこーゆーステロタイプの悪女の方が遙かにいいゆいと狂ってしまったあ、ヒルダ様！とにかくあの目付き、物腰、コスチュームともおおすてき、という感じでポカンと口あけて四六のがマの体勢で映像眺めておるわけだ。がしかし、これだけ一気にその魅力のトリコとなってしまうヒルダ様だが、戦闘が始まって後がどうもいけない。「悪女ぶりとゆーのは見てくれやセリフ回しよりも話を進めていってしまいう言動にこそ表してほしいわけで、アテナや聖闘士が考えもしないような凄絶な二の手の手を繰り出してこそ……」だっただが、戦闘のあいだじゅうヒルダ様が何をなされていたかと言えは、こっちは鷹を舞わせあ、ちではカラス（！）にエサをやり今度はカゴの鳥にハッ当たりをするという具合で、部屋とベランダをウロウロと……早い話、何にもしていないのである。ジークフリートをもひひらす程の強大なコスモも、手にとった花を枯らすとかゆー実にツマラないことに費されて

いるわけで、果ては当初の余裕ある態度もどこへやら、「だらしないぞゴッドウォーリアー！」とヒステリー起こしたりで可愛くなってしまう。ナてこれほど何にもしていないヒルダが、なぜにその存在感を保ちえているのかというところ、私はやはりそれまでの半生をひたすら世界の人々のために犠牲にしてきたという実績がものを言っているのではないかと思う。一見無策無思想に見えるヒルダの反逆も、世の人々のためにそしてそれを支配するサンクチュアリのためにひたすら耐え忍んで極寒の生活に甘んじてきた過去の日々を思えば、「まあわからんではない」という感想を持ってしまうのではないか。（へ）



「ニーベルングン・リングの魔力によって邪悪に

変心してしまった」それはそうだろう。しかし我々だって、それ以前の彼女とアスガルドのくぐってきたカレツな境遇を、打倒サンクチュアリを叫ぶ悪女のヒルダに重ね合わせて見ているのだ。オーフス・ニングで迫ってくるヒルダの、底知れぬまでに暗い瞳は、単に心を封じられた者のそれではなくアスガルド全体を覆っている宿命の暗さそのものなのだ。……このバックボーンがあればこそ、ヒルダの声はアスガルドの歴史として、そしてオーディーンの声として神闘士を動かして来られたと思う。

と……こころろろろ！ソレントが現れてからのヒルダ様はこーゆーファンの思い入れなぞどこ吹く風、良く言、て学園ドラマの教頭、下手すりゃ猿回しの猿レベルの言動を連発してアスガルドうん千年の怨年もどこへやら、モリモリ士気を低めてくれる。こりでは打倒サンクチュアリの口マンもへちまも無い。（車田ファンに「ハヌ姫」と言われるわけだ。夜叉八將軍はむしろ海闘士七將軍という気むするが）予想されたことは言えこの痛手は大きかった。私などが悪女ヒルダに熱狂していたのは、一つにはこのヒルダ、あくまで仮の姿であってどのみち呪いが解かれ元の姿に戻るの明白、ならばそれまでのうたかたの夢をせひとも美しくも凄絶なものにしてほしいということもあつたのだ。そしてそれなればこそ――普通の犠牲的精神に富んだヒルダでは口に出すことのできないアスガルドの民の怨念を、この酒の席のフラチのような状態のうちにバク発させてはしか、たのである。

有効打数調査 (効果のあった攻撃の直撃だけを計ったもの。壁や床に叩きつけられたものは数えない。スリッパは別。)

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨
トール 14	フェンリル 48	ハーゲン 9	ミメ 21	シド 4	バド 39	ジークフリート 34	ヒルダ 13	
星矢 5	紫龍 2	氷河 1	瞬・輝 7	瞬 2	一輝・シャイナ 2	全員 4	全員 2	

そういうわけで悪女ヒルダこれにておしまい。あと付け加えるとなると、戦闘シーンのヒルダ様は良かったということ。本来のコスモを封印されているため武器に頼っているのが今いち不満だが、あのコスチュームのヒルダ様が指輪かざしてオーデインローブ着用の青い星矢と対峙してるトコなんか久々に聞きのロマンを感じさせてくれる構図でフロレス黄金時代を思い出してしまう。バルムングの剣でやられる瞬間に、悪女としての総決算的キメを見せてくれればよかったがまあいいか。それとも一つ、呪いをかけられていた間もヒルダの意識は覚醒していて、ホセイドンの力で現実を起こっていることをすべて見せられていたというトコ。第一話の善玉ヒルダというのはヘンに徹底した非戦主義のヤサ少女と見えなくもなく、愛するアスガルドの勇士たちが次々と死んでゆく地獄図を、目をそむけることもできぬままつづきに見せつけられ狂い死にを待つばかりの

目にあわせるというSMチックないぢめも、意外に納得がいくものだったりするのである。

セイラント サンクチャアリ 聖闘士と聖域のこと……

アテナの聖闘士にとってアスガルド篇は辛いシリーズだった。一部星矢ファンに不評なものやはり青銅聖闘士5人の扱いに問題があったからに違いあるまい。何と言っても**弱いし**。(上表・有効打数を参照)一方向的にやられている割に黄金聖闘士ゆずりのへらず口は達者だったし。

二度とこいつの悪い口が開かぬようにしてやれ
(フェンリル)

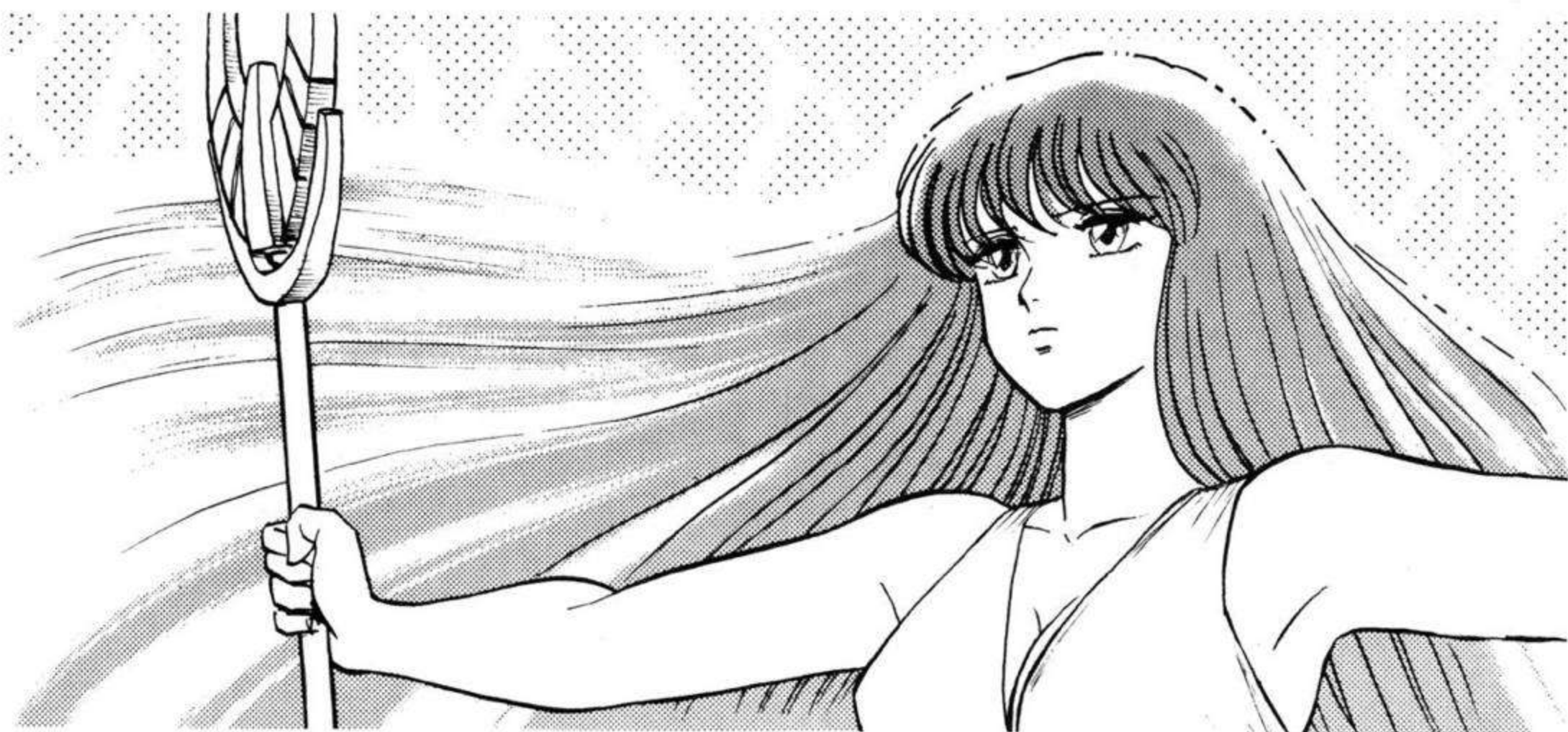
今度はそそのへらず口を封じてやる!
(ミメ)

ナミほどまでの大口はどうしたのだ!
(バド)

一輝様などシブ士が魅力なのにアニメじゃ説教オヤジで、映画でも、邪悪あるところ必ず現れる正義の聖闘士うんぬんとか、この命ハナからアテナに捧げておるゆゑなどと大ウソ小ウソをついてきたが、ジーク戦では「俺たちは十二宮の闘いにおいて、どんな強大な相手をもことごとく倒してきたのだ!!」と極めつけの大ボラをこいて我々を圧倒している。

その他細かいことも色々あろうが、そうしたこともよりも彼らが置かれた立場そのものに問題がある。どんな理屈をこねたところで、どんな不屈の闘志を見せたところで、死人の衣服をはいでゆくような行動をとっている青銅をカッコよく見てくれというのはどだい無理があるのだ。半日で決着をつけねばならぬという状況も不幸だった。聖闘士たちはひたすら問答無用の強





女突破に走らざるを得なかった。神闘士たちはその言い分をまともに受けとってもらえず、双方の言葉はほとんど実のある話になっていない。考えてみたい。七人の神闘士がおよそ団結して闘うことなどできめアブない面々であつたにも関わらず、ヒルダの号令のもとまかりなりにも共同歩調をとることができていたのはなぜか。「アスガルドに光を与える」という大目標があれば、どこにウセのある面々であつても結果せざるを得ぬ説得力を持つコモン・センスであつたからではないのか。それほどに、アスガルドの東土に生きる者の、光を、緑を、豊かな大地を思ふ心は切実だつたのではないのか。

ミーメやバドと闘っていた一輝は、相手が自分たちに劣らず暗い過去を持っていたことを知るとこう言う。「確かに今の時代は邪悪がはびこっている。だが俺たちは絶望しない。いつか俺たちのような不幸な子供たちがいなくなる日が来ることを夢見て、明日の希望を信じて闘っているのだ。——一見も、ともらしい議論である。しかし世捨て人みたいなミーメやバドならともかく、アスガルドの現実を真近に見ているジークやハーゲンなら、間髪入れずこう答えたろう。「いつかなどという夢を追っている暇は我々にはない！明日の希望などと悠長なことを言っている余裕は我々にはない！今の時を何とかせねばならぬのだ！貴様たちサンクチュアリが我らの祖国を踏みつけにしているこの状況をこそ、この場で片付けねばならないのだ!!」

……そうなのだ。星矢や一輝が「明日の希望」と

いうお題目を唱えアテナを信奉している時に、同じ神の戦士であるトールは「オーディンだか何だか知らないが、そんなもので腹がふくれるのかよ」と毒づく生活をしてた。——衣食足りて何とやら。少なくとも聖闘士たちは衣食住に不安を感じている様子はない。……この差は百万弁を費しても埋まらぬ溝だ。

一方は豪邸に住みお花畑でたわむれている。一方は極寒の地で食うにも困る民を抱える。一方はいつ現れるかわからぬ「邪悪」との闘いに備えて鋭気を養っている。

一方は屋敷を問わず極点の氷が流出するのを防ぐ使命（義務）を負わされている。

——この差は一体どこから来るものなのか？ だんだん恐い考えになってきた。

もしも世界各地にアスガルドのような存在があつて、それぞれが世界を守るため日夜こうして闘う日々を送っているとしたら、聖域の仕事など、それはそれは安楽なものだろう。せいぜい近所で死にかけているオヤジに声をかけたりその辺の子供とたわむれていれば済むのだ。何しろ聖域の実権を握ったアテナですら、アスガルドのことを「争いを好まぬ平和な民である」と聞いています。と言っているように、自らを犠牲に供している人々のことをろくすぼ知らないで済ませているのであるから！——この差は一体何であるのか。聖域は邪悪に対抗しうる力を備えているから緑なす大地を握り、それができぬ弱少の神（と代行者）はせいぜい氷でも抑えることで理め合ひせをしているのか。力がない者だからこそ、苛烈な境遇に甘んじねばならないのか？

しかしこれはおかしい。これは変だ。十二宮の闘いにおいて、力こそ正義」という「邪悪」の

黄金聖闘士に対して瞬は言ったではないか。

「それならば力のない者はどうなる。力のない老人や子供は常に力のある者の意に従えというのか」と。その瞬がアスガルドの民であるヒルダや神闘士に対して何と言った？

「北を守る使命を持った者が地上を支配しようなどとは許せない！」

——これは一体何なのだ？

一輝のいう「不幸」とはみなし児としての過酷な生活や兄弟で争わねばならなかった宿命という。現実生活における不幸せのことだ。ならばそれがそのままあてはまるアスガルドの「不幸」を作り出している原因は一体何なのだ？

——そんなこと考えにやめてゆく。

何かの目的のためにやむなく世界を支配している……のではなく、世界を支配すること自体がそもそもの目的だったと考えてみよう。それでは聖域は単に強大な力で豊饒な土地を奪い取り、弱き人々を逆境に追いやってたさん奪者に過ぎぬ。だがそこに、邪悪と闘う……という名目を持ちこんだとしたらどうなる？

……まさにその免罪符ゆえに聖域は世界を足下にして悠々としているのだ。我々は聖域の歴史をサガやアテナの立場からはかり見てきたが、その間も飢え、倒れていったアスガルドの民の立場から考えてみよう。人の一生は短い。苛酷な境遇の中で死んでいった哀れな民にとって、来るのか来ないのかもわからぬ敵の存在だけで豊かな生活を保障されている人間というものはどう目に映ったろうか？

邪推はいくらでもできる。極点の氷が溶け出すのを体をはって防いだのは、世界の人々を守るためではなく、世界が崩壊しては自分の「支配」も根底から崩れ、「女神」もただの人になってしまうのでこれを防がざるをえなかったのではなか、たか」と。

思えば聞けばアテナがアスガルドに乗り込んで来るところから始まり、アスガルドの戦力と大義を根こそぎにして終わった。もしもこれが「造反」を口実にアスガルドを属国化させるための計画的な侵略戦争だったとしたら——。

もちろんこれは邪推に過ぎないだろう。しかし全てが終わったとき、アテナが自分の命を奪いかけた極寒の地の、その地の統治者に向けて言った。「これからこの美しいアスガルドを守って下さい」という言葉は、それが非常に寛大な態度と共に言われているだけに、かえって不気味な計算高さを感ぜてしまうくらいなのだ。

……この一言で全てが終わった。しかしそれは全てが白紙に戻っただけで、状況は何一つ変わっていないことも示す。現にアテナが聖域の實権を握った世で、これから光を知らずに死んでゆく民がいる。緑を知らずに死んでゆく民がいる。……一輝様、こういう人々のことを「不幸な人々」とは言わないのですか、なぜにアテナは彼らを放置したままなのですか、教えて下さい一輝様！

……意外と一輝様、こう答えてくれるかも。そんな答えなどないのだ。

……さらにおごそかにつけ加えたり。俺たちは聞かなくていいのだ。

……そうなのだ。宝瓶宮での感動的な場面における氷河の言葉を覚えてほしい。聖闘士にとって、どちらが善かなどはどうでもよい。とにかく信じて闘ったら迷うなと言えんばかりの教えが迫ってきている。

「原作」には、もともと車田作品に共通する要素——運命論と口コッな階級差別——が脈動している。しかしそれは現実を越えた英雄伝説を生み出す際の副産物である筈だ。その伝説の集大成として描かれた、黄金聖闘士篇の壮大華麗な叙事詩は、まさに完成されたものの

みが持つ美しさに彩られた一大モニュメントだった。

……だがしかし、聖闘士たちはアテナに対する盲目の信仰を深めすぎたあまり、その拳を向ける相手を誤った。聖域の支配の下、永年の貧苦に耐えてきた弱き国民にその矛先を向けた時、聖域とその支配する世界の美しくもドス黒い一面と、それを守る聖闘士の意外な思想的ゼイ弱さが明らかにされてしまったのだ。——もはや真実と覆い隠すべくもない。彼らがその理想の下に踏みこみ、てきた歴史と世界は現実のものだったのである。

……アスガルド篇は「聖闘士星矢」の自己否定である。

そしてそれゆえの輝きを、暗い画面の中に見せてくれているのである。

4/26



この月勝負

私がアスカルドー1

一話のみでシドを倒すのは星矢だと信じて見たのにちょっと残念。「アテナを救うんだ」の前には「決着をつけちゃう!」も歯が立たなかつたとゆーことでした。

それにしてもアニメ雑誌なんて見るもんじゃありませんね。せっかくいい演出でバドを出してるのに、始めからバドの存在を知っていた(アニメ雑誌)私にはそれを楽しむことができなかった。

しかし最終話でバドが死んでいる?のにははっきりに言っ飛ばしました。どーも全体のストーリーの構成と各話の演出が、かみ合いませんように思います。NEWクロスをもうう所とか。

こまったこまった……



シド……
コピッカード
衛屋ではない

私はシドだ
ハーゲンじゃない!



映画さえなければ荒木先生のアスカルドー編がもとめられたのに……

By 2x



この月勝負

私がアスガルド-2



いや〜こいつはとんでもないやっだ! まあいくらいゝは本当の悪人がいてもいいと思うけど(他の人はために世界征服を口ばしていいけど、本当はヒシダの言ってる事しか考えない単なるアホなんですよ)ただ人間をとらずとも、ネーチャー・ユ・テリテイが、あいつは星矢や水河には楽勝だったんじゃないかと……



Byみ

誰の許可でやと人のじゃこ



しかし自然を操るとゆーからには植物にはやさしい男だったわけないなと書きながら思いました。とみなもては!?



へといいて描けなかった言訳をする私でありました。

この勝負

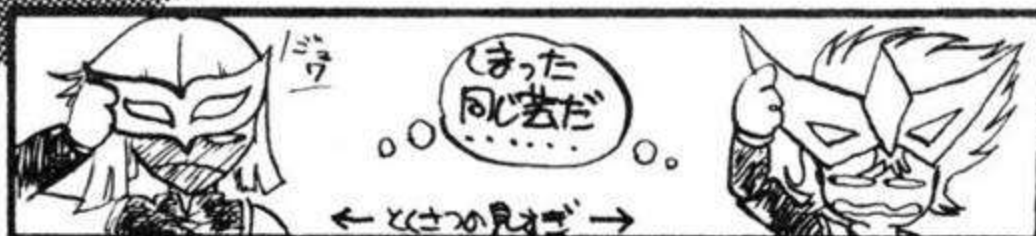
私がアスガルドー3

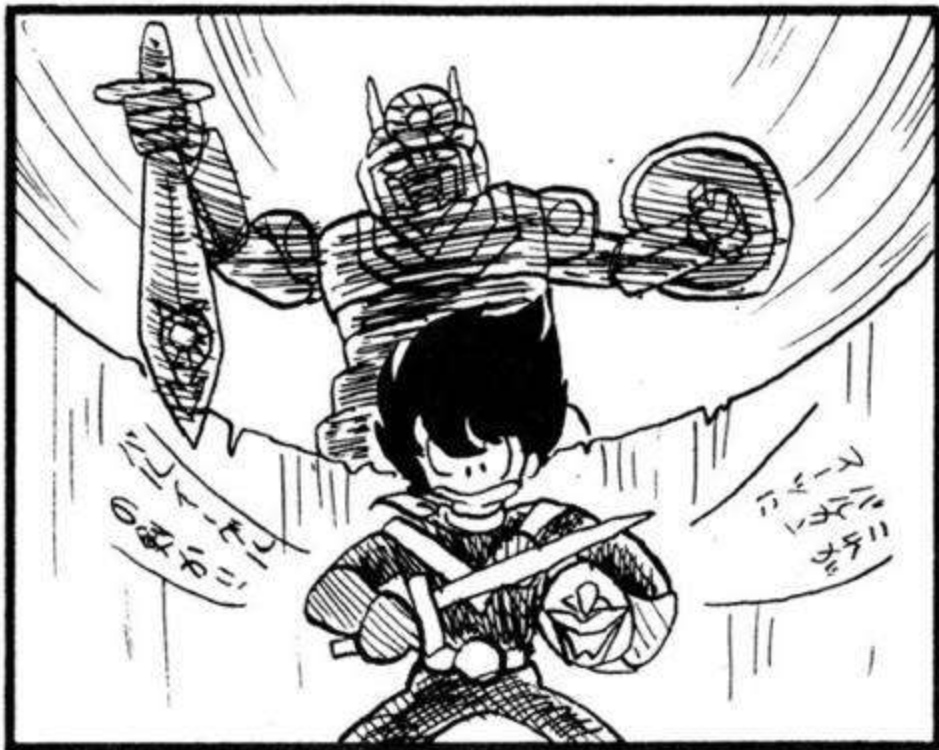
やはりハーゲンですき! こけきやない
画面を見るこの圧倒的迫力! BGM
もこの回が一番印象に残って、CD
を聞いてても「新たなる戦雲」のBGM
がかかるとハーゲンと3人の向い合
てるシーンが思いうかび「ウェッウェッ」
「ヒューン」の鳴き声まで頭の中に
幻聴するほどであります。

BYみ



子供のころの回想シーンでも
彼のが一番「明るい未来」
があって始きなんです(他の
人のはちょっと暗くていかんぞ
す)。しかしそれがよけい
に、フレアとの虚しい死別
を残酷に感じてとても
いたたましい。(死に際の一音も
ない) コーゆー感じをアニ
メで味わったのはとても
久しぶりの気がする。





最後の勝負
私はアスガード7か!!

なんだそい



イスマ...て知らな
いよね...それは

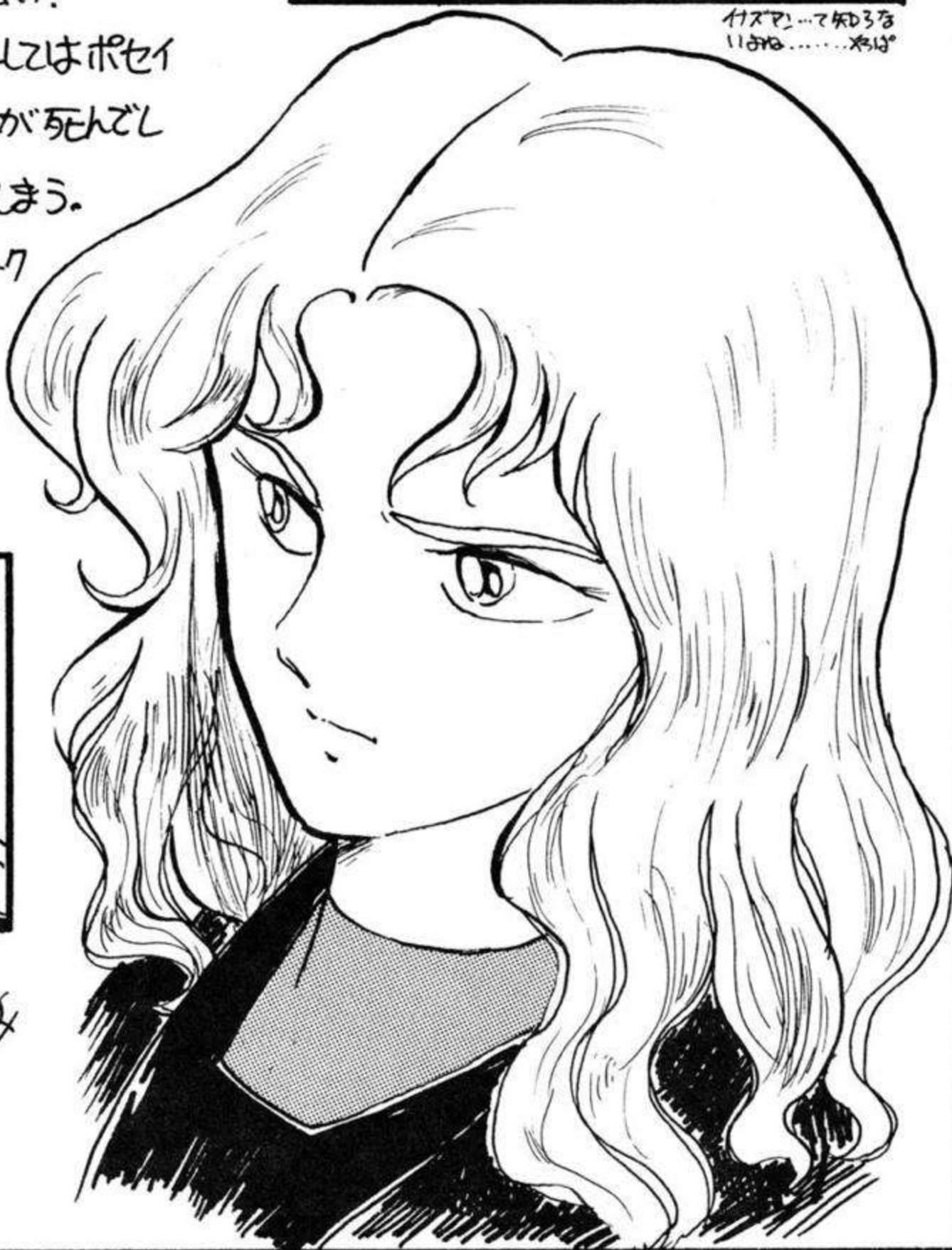
強い! 絶体に強い我がジークフリート!
だけでなく他のゴッドウォリアーもど
考えたって「ゴルド聖騎士の足元にも及ば
ないマリナー7将軍」より強い!
ゴッドウォリアーファンの私としてはポセイ
ドンのせいだゴッドウォリアーが死んでし
またかと思うと腹が立ってしまう。

こいでソレントが生きててジーク
が死んでたなんてことになっ
たらもうただではすみません!
3倍にダビリグしてやる!!



ただ一輪の花のため
私は命をかける

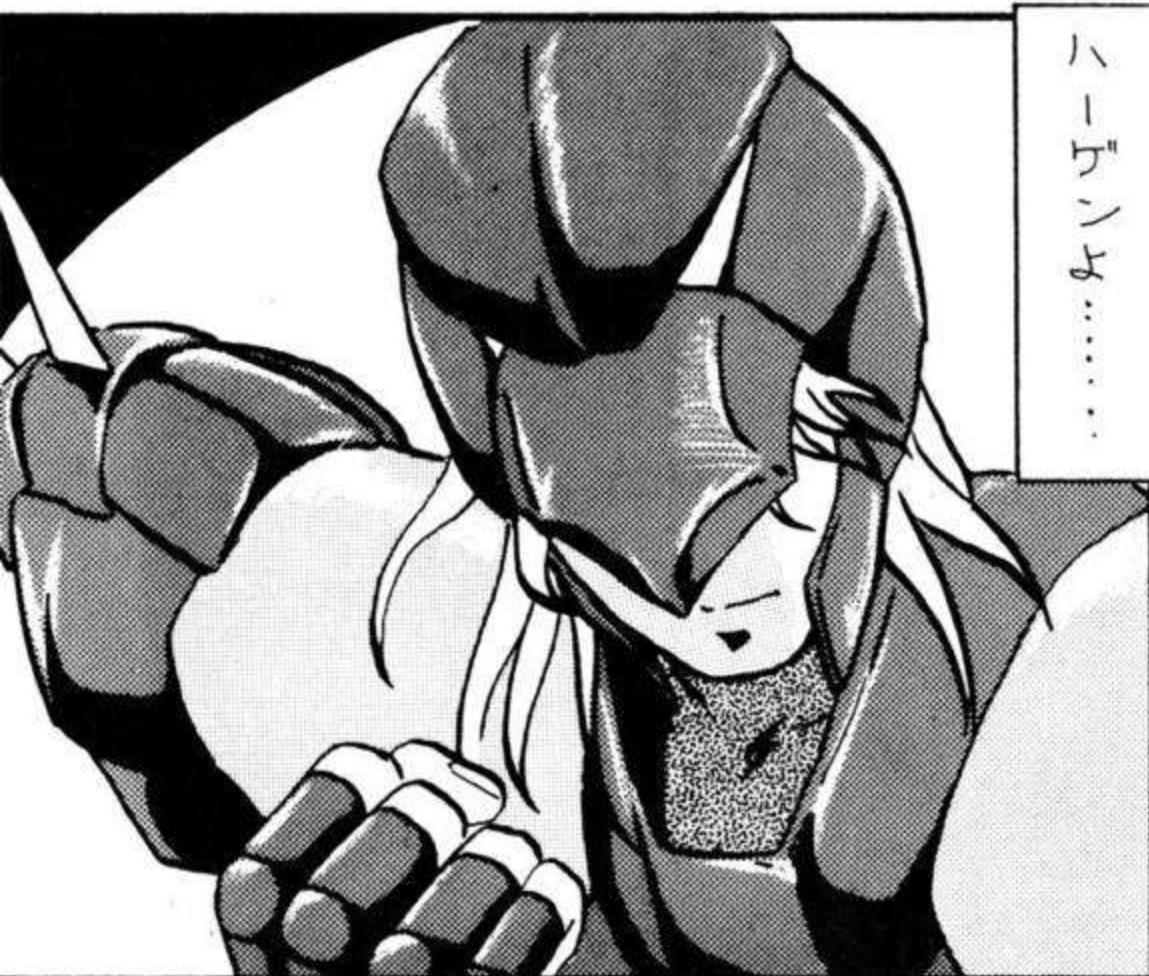
BYBY





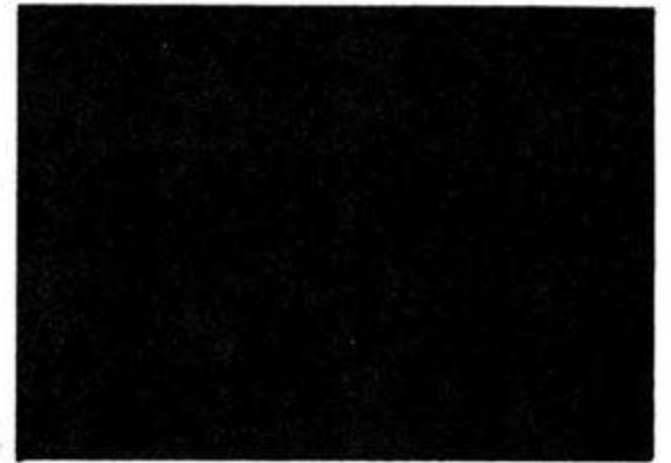
ARIS HONDA presents

ヒルダ...悪魔に魅いられた女神



これで本当に
良かったのか...?!
ハーゲンよ……





ジークフリート！
お姉様は
変ってしまったわ！！

バカな…

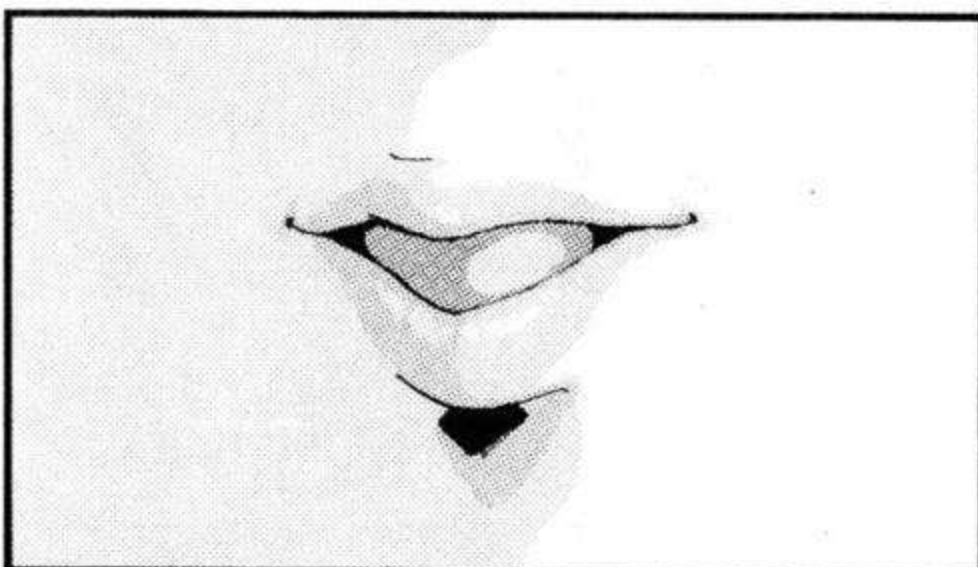


かまわぬ…

ビルダ様
灯りを…



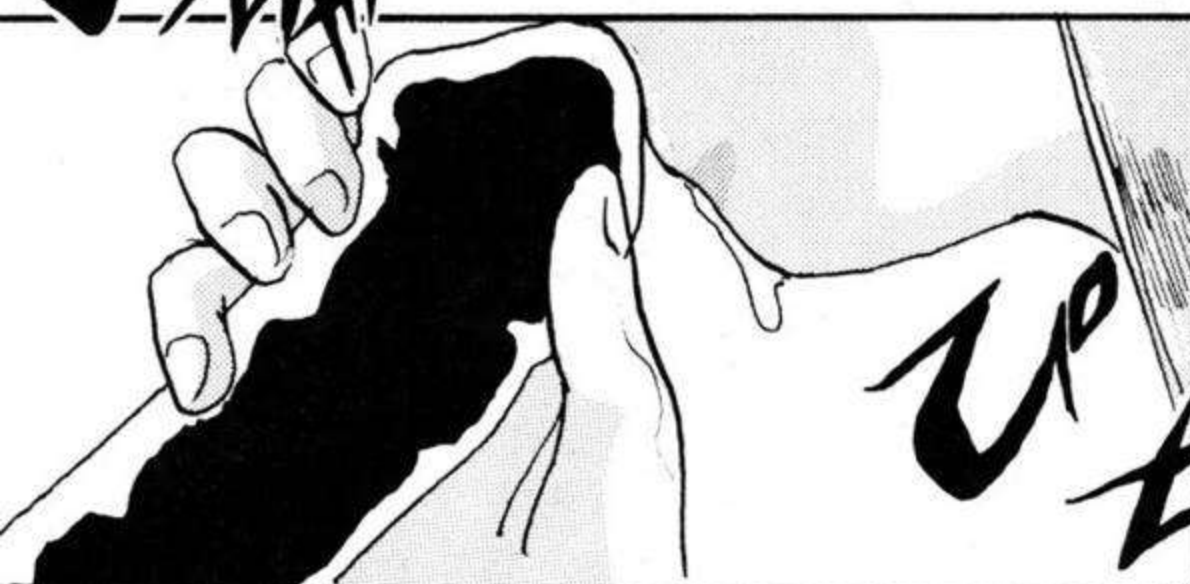
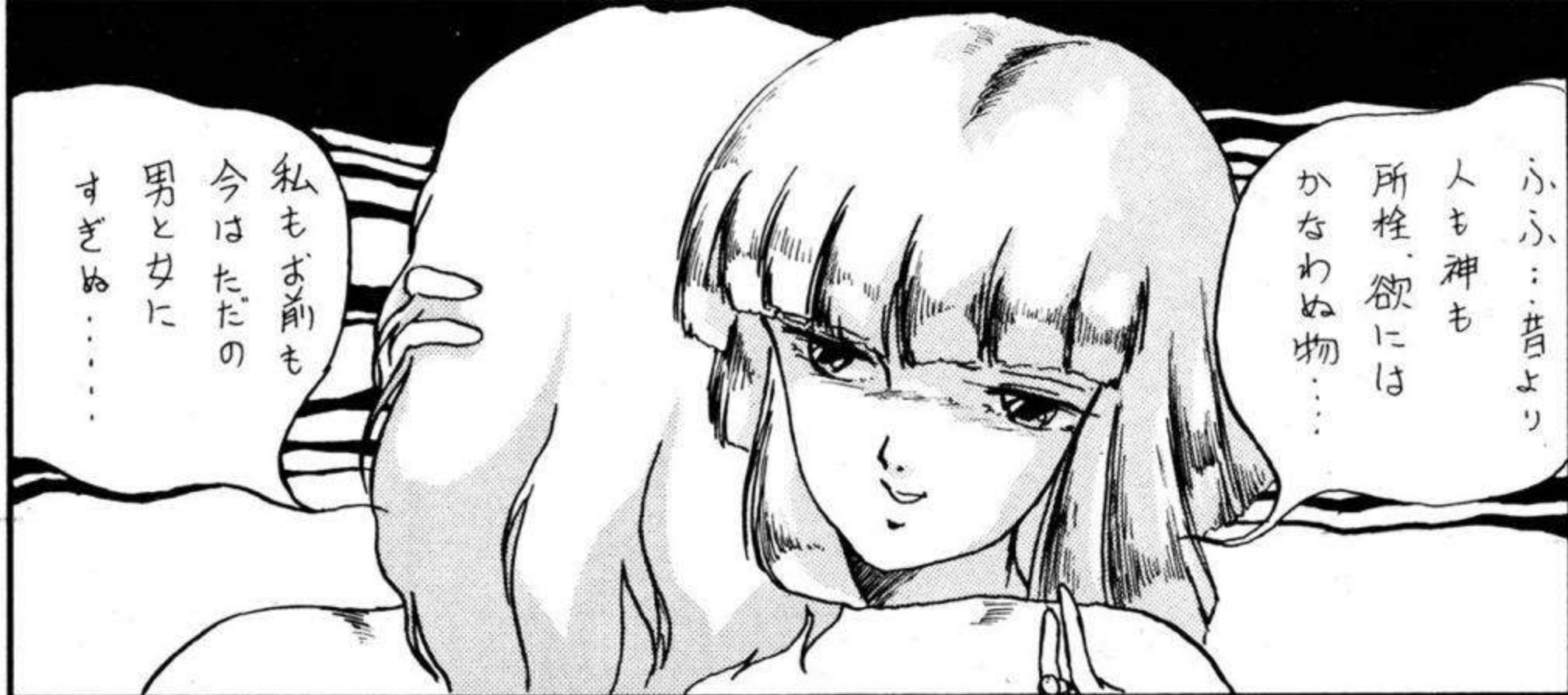
しかし…



ジークフリートか…
…？

はっ

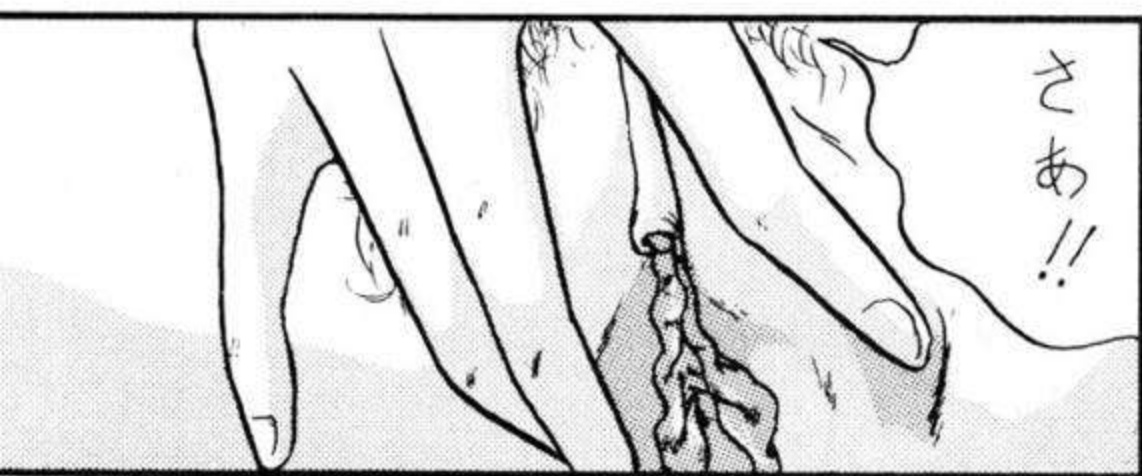






ゴホッ:

ふふっ...それで良いのだ...
ジークフリート...!!
アスガルドの民が
苦痛に耐え忍ぶ時代は
もう終わったのだから...



さあ!!



さあ...

お前の欲しい
モノを奪うが良い
お前の力だな...!!



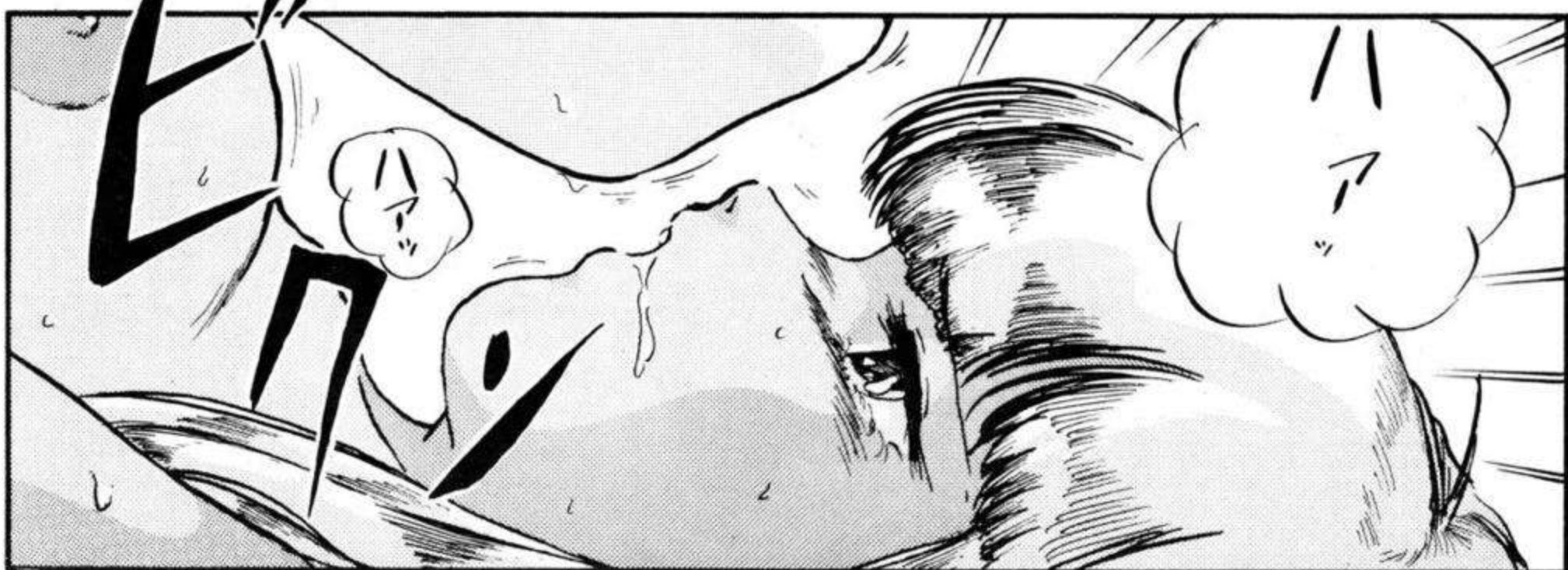
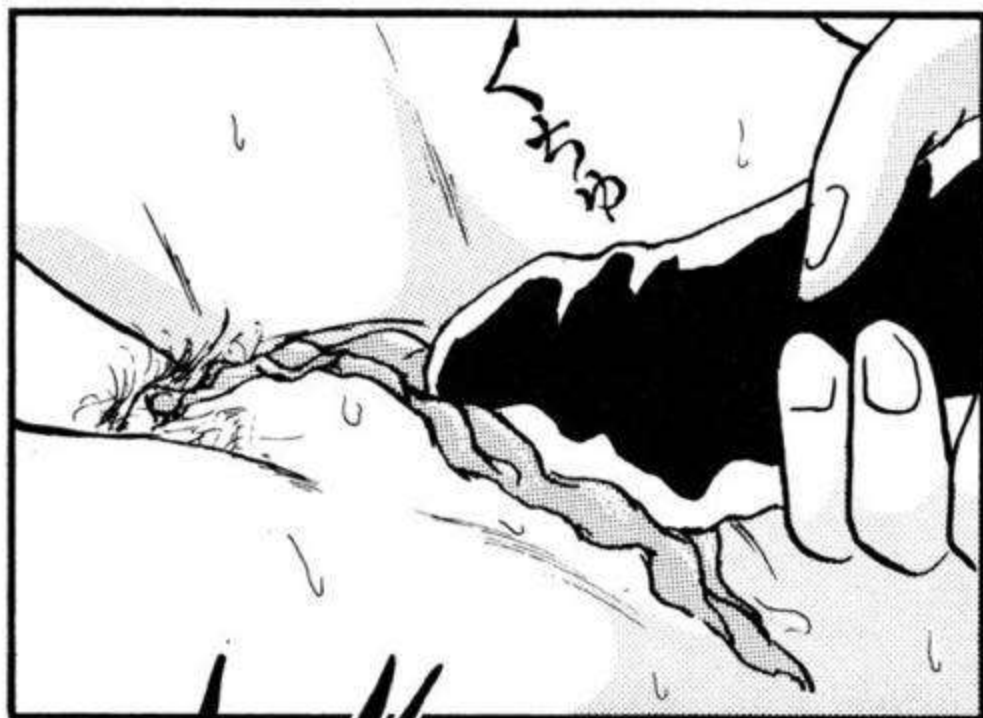


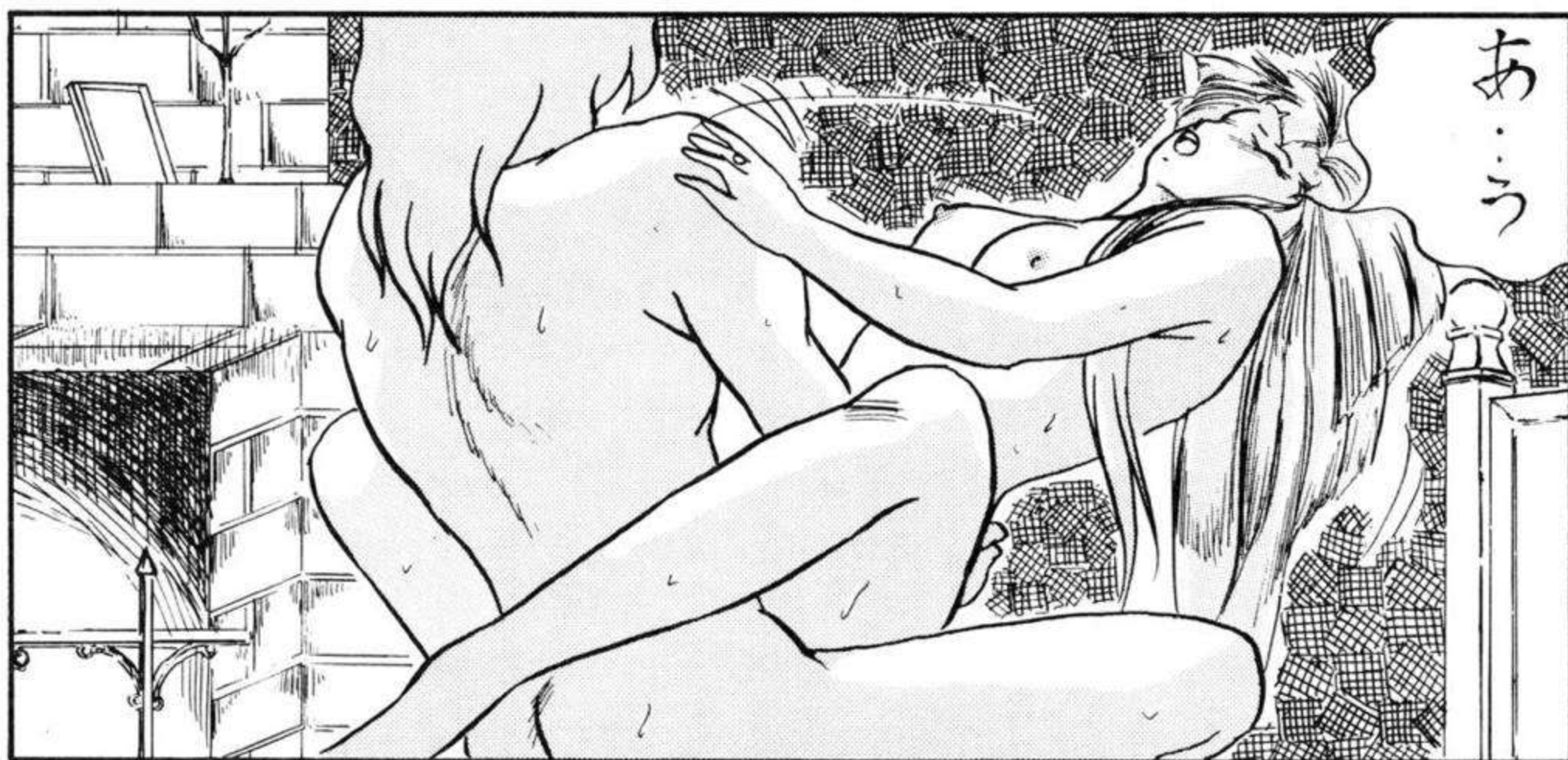
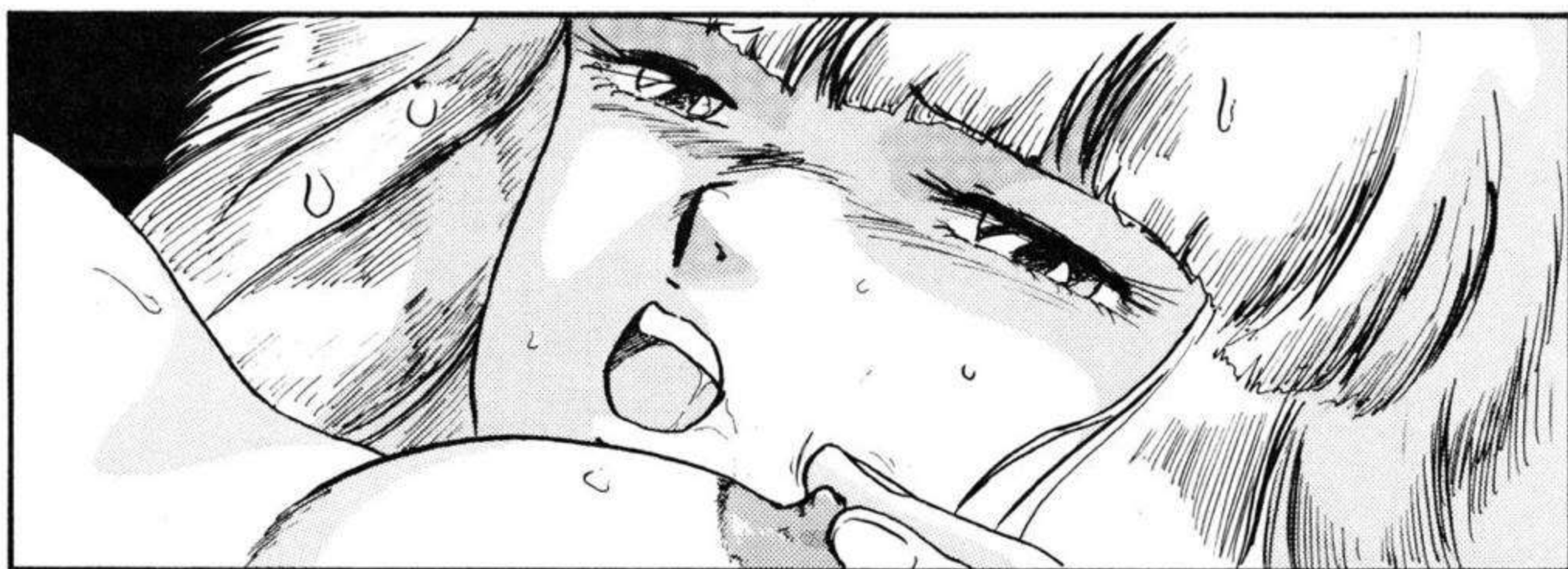
早く...

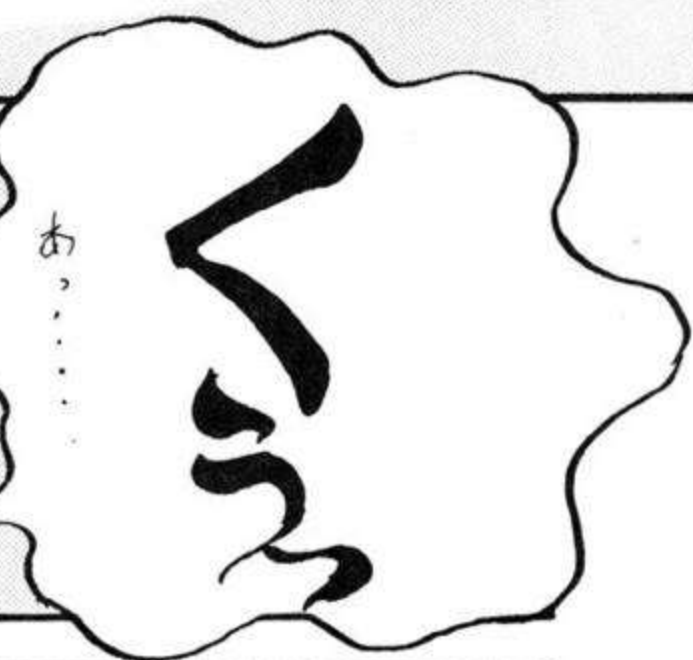
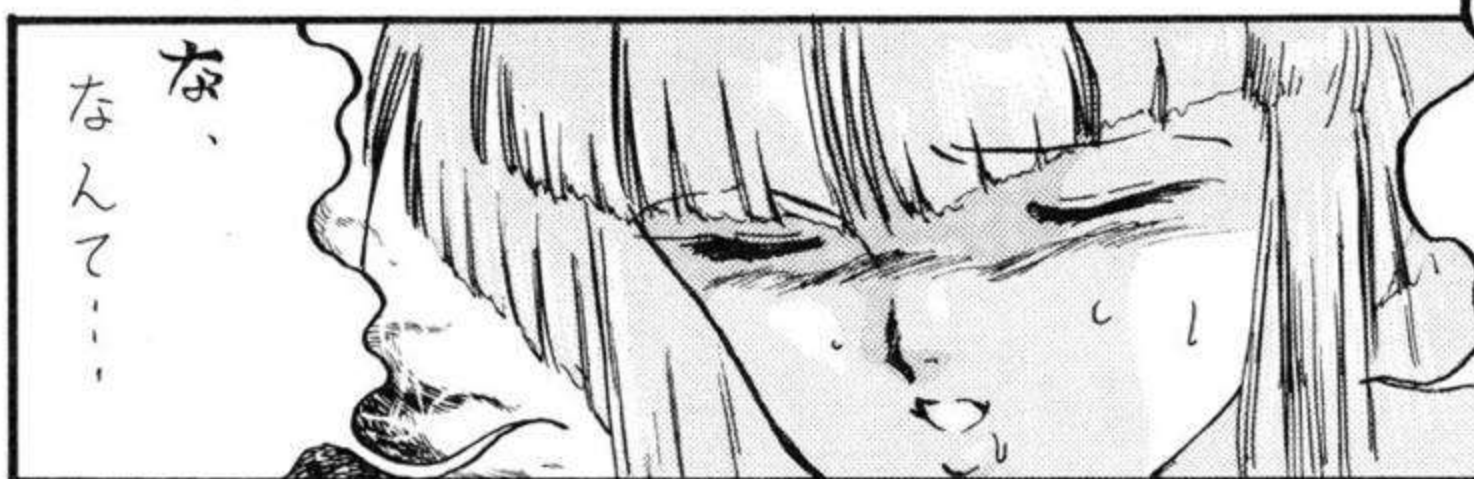
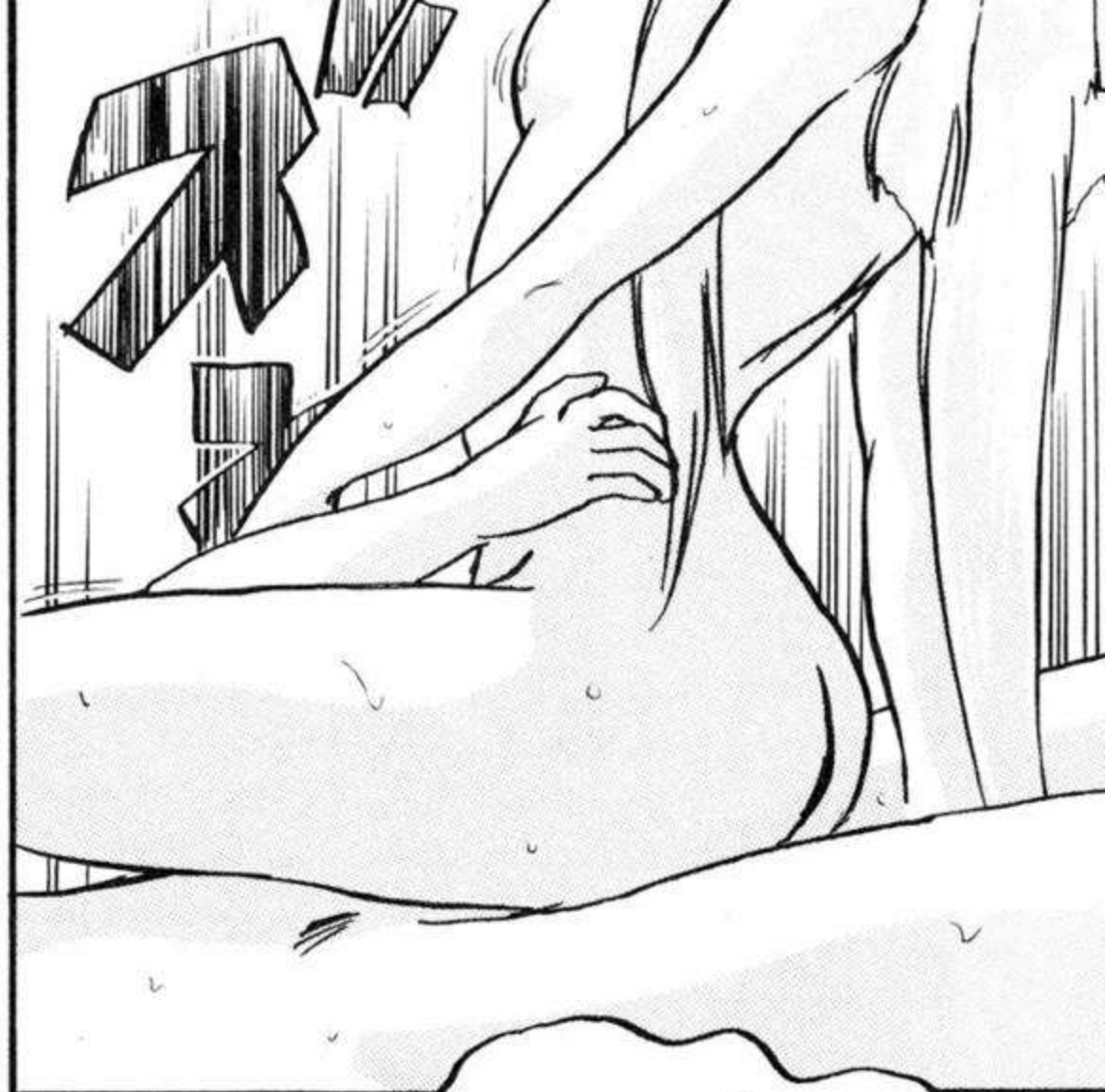
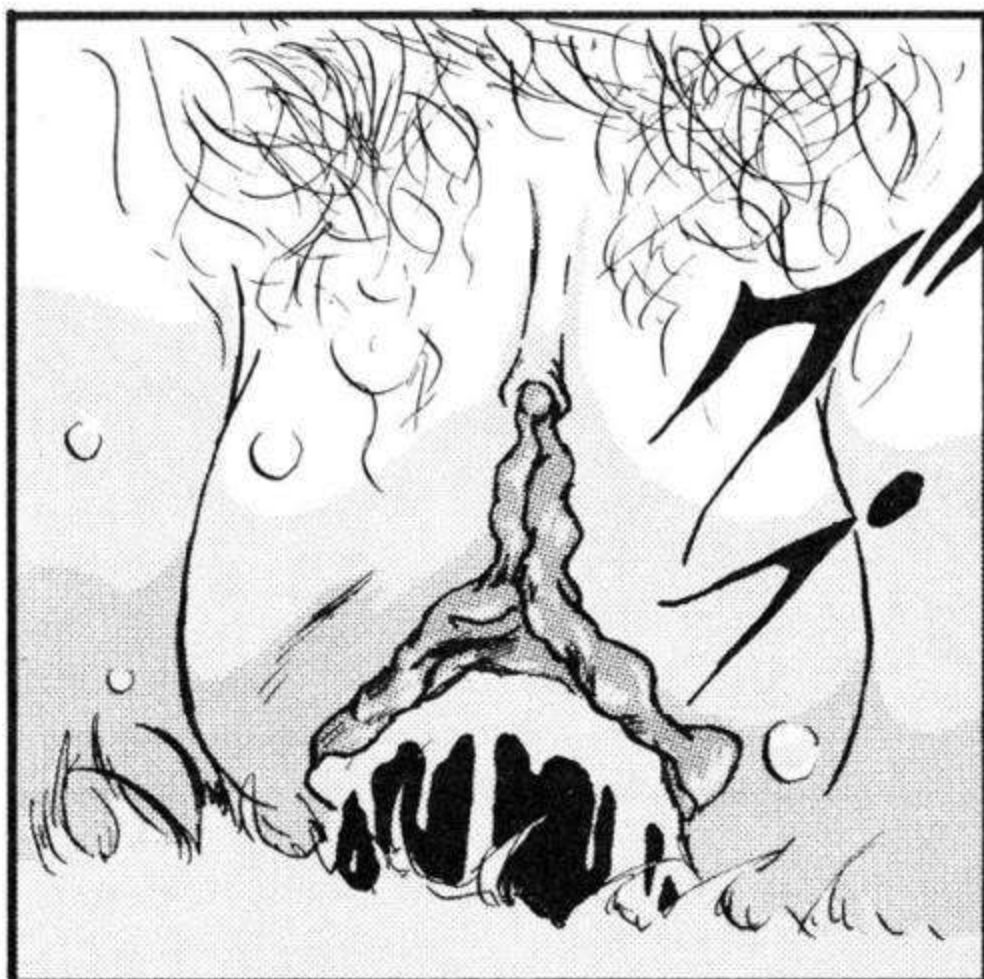


早く...
私の中に...

はう...
早く...
お前のまんこを







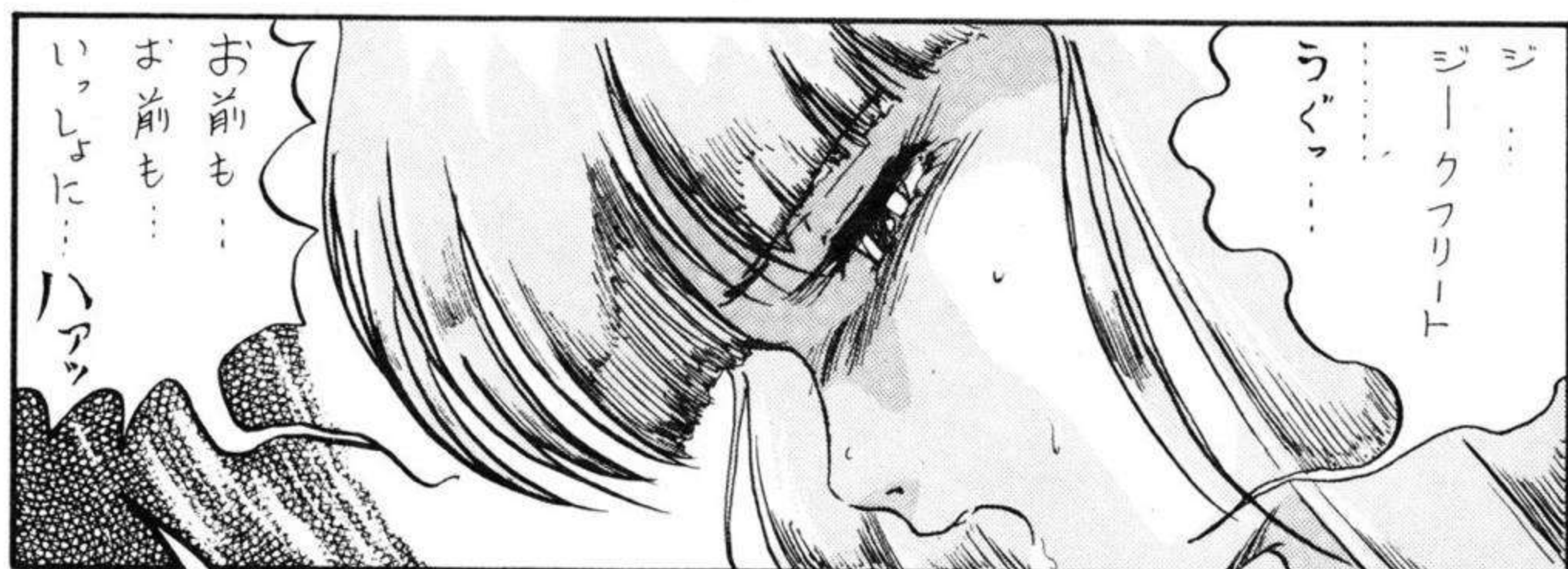
な、
なんて...

あ... ..

なんて深いっ!!

あ... ..

もっと...
もっと...
奥まで...



たとえ…たとえ
ヒルダ様が
何者であろっか
かまわぬ！
ジークフリート
どこまでも
ヒルダ様を
お護りするのみ
…命に代えても！！



FIN

T. Taya



ぜひぜひぜひひと
御意見・御感想を!!

お待ちしております。



あ、それと次号に向けて
幅広く原稿を募集して
ます。お気軽に御連絡
下さい。

連絡先は
おしらせ見てね



編集後記



12月16日 午後 印刷所にて
未だに全部の原稿は ところない。
すでに入稿日は 破竹の進撃で突破
済み。もはや残すところ たった1日となってい
った。明日の朝、残り12Pが入稿でき
ねば 今年の12月25日は アレックス
となることは 明白である。入稿できても
間に合うかピーカ わからないところも 辛い
所である。しかし、麻呂は こゝろ一歩
も遅かんぞえ。今夜の徹夜も 必至で
おじやる。ホホホホホ 藤田少将桂樹

バイクで会社から帰る途中に 突如キヤス
とユー・ガ・リ・ス・タ・ン・ドがありまして、氷河ろ
うである私としては、ついついそこでゲツリン
を入れてしまうのでありました。



これにキヤス映画
(Pベル編)がみたい
みたいの上木エ(かみ
むらじろ)でした。

今日(12/10土)街で聞いた小学生の会話
「もう聖闘士星矢だろ。」
「瞬が危ないんだろ。だけどどうせ助るよ。」
「いつもパターンおんなじだよ。」
そういえばキヤスを話題にしていた、やはり小学生
の女の子が「いくらアニメとはいえおんなじとてきるはず
なよ。」と吐き捨ててたのを聞いたことがある。

我々はヤマトやもと前の仮面ライダー、ウルトラマンを
見て何をしゃべっていたのだろうか。

B. N. R.

「シュガー・レイ! シュガー・レイ!」くそ〜レナドなんか大、
嫌いだあ〜!! くらえライジングビロウズ! 切り裂けバイキング。
タイガークロウ! とどめは大逆手から閉脚イエーガー一回ひねり
を決めようとして見事落下!!
原稿も外れまくっていた

ケステ・スイシーダ でした。

★	打撃 守備	1 8	2 4	3 3	4 5	5 1	6 6	7 7	8 2	9 9	控 投	監督	監督
★	S チーム	那 智	瞬	紫 龍	一 輝	星 矢	氷 河	市	蛮	激	邪 武	沙 織	童 虎
★	打撃 守備	1 8	2 7	3 5	4 3	5 1	6 2	7 4	8 9	9 6	代 打	監督	監督
★	A チーム	フ ン リ ル	ウ ル	ハ ー ゲ ン	ロ キ	ジ ク リ ト	シ ド	ミ ー メ	ト ー ル	ア リ バ ビ エ	バ ド	ヒ ル ダ	ド ル バ ル

★ 次回
はこんな
マンガを
描きたい
ぞと。

たまたかしです
最近、悪か、た目がますます悪く
なりまして、1年前に買ったメガネが
もう合わなくなっていています
夜 バイクで走るのがこわい。
かいて新しくかう金もないし...
こまったもんだ。
というわけで次回は「オレンジ・ロード」に
決定しました





Yggdrasil



発行日 1988年12月25日 発行人 藤田桂湖
発行所 OFFICE KATO 編集 PRINCESS PRINCESS
連絡先 〒181 東京都三鷹市牟礼3-6-3 村田方 加藤達巳
禁無断転載



**PRINCESS
PRINCESS**